



ARCS REPORT 2019

アークスレポート



株式会社アークス

本社 〒064-8610 北海道札幌市中央区南13条西11丁目2番32号
 TEL.011-530-1000(代表) FAX.011-530-1010 www.arcs-g.co.jp

2019年9月発行



平成から令和へ。
時代が生まれ変わり、
私たちを取り巻く社会、経済環境も大きく変わりつつある2019年、
私たちアークスグループも新しいステージへと踏み出そうとしています。

そのテーマは「^{らんしゅう}濫觴」。
大河も水源をさかのぼれば^{さかすき}觴を^{うか}濫べるほどの
小さな流れであるという故事から、
物事の始まりを表しています。

グループシナジーを最大限に発揮できるよう
グループ横断的なプロジェクトに次々と着手しています。
事業構造の大改革をスタートさせた「今」はまさに
私たちにとっての濫觴です。

お客様第一主義という決して変わることはない
想いをあらためて胸に刻み、
技術革新と精神性を融合させながら、
次世代のスーパーマーケットがいかにあるべきかという課題に挑戦します。

社会の発展と人々の幸せに貢献する企業グループを目指して、
新しいストーリーの幕を開けます。



新^{らん}ス^{しゅう}トリーの幕開きへ。

CONTENTS

03	数字で見るアークスグループ
05	アークスグループとは
07	グループ理念体系
09	グループ歴史
11	グループ市場シェア
13	会長メッセージ
15	社長メッセージ
18	グループシナジー
	〈特集〉
19	01 北海道胆振東部地震レポート
21	02 トランスフォーメーション計画
23	03 グループ価値共創の取り組み
25	04 事業会社トピックス
	〈ESG活動報告〉
27	あらたな価値創造へ
29	安全・安心への取り組み
31	地域社会への取り組み
33	お客様サービス向上の取り組み
35	コーポレート・ガバナンス
37	人材教育
39	ダイバーシティ推進の取り組み
41	環境への取り組み
	〈事業会社紹介〉
44	株式会社 ラルズ
45	株式会社 ユニバース
46	株式会社 ベルジョイス
47	株式会社 福原
48	株式会社 道北アークス
49	株式会社 東光ストア
50	株式会社 道南ラルズ
51	株式会社 道東アークス
52	株式会社 エルディ
53	財務ハイライト・重要指標
55	会社情報
57	株式概要
58	社名・シンボルマーク

編集方針

本アークスレポートは、WINの6乗（お客様・社員・お取引先様・投資家様・地域社会・企業という、企業に関わるすべてのステークホルダーとWIN-WINの関係を築くこと）を推進している私たちの活動をすべてのステークホルダーにご理解いただくことを目的に、主に2018年度（2018年3月1日～2019年2月28日）に取り組んだプロジェクト内容やトピックスを総括しています。また、現時点での課題や今後目指していく方向性についても掲載し、アークスグループの「これから」の姿と想いをお伝えしています。

表紙について

令和という新しい時代のステージにスポットライトが当たり、私たちアークスグループが目指す未来をも照らしているイメージを表現しています。

売上高

約 **5,122** 億円



毎日の暮らしに密着した食品スーパーマーケットと関連事業により
売上の9割は食品が占めています。

1日当たり平均来店客数(スーパーマーケット合計)

約 **60万5,000** 人



2019年2月期はスーパーマーケット331店舗に年間でのべ約2億2,000万人のお客様をお迎えしました。
毎日の暮らしを力強く支えながら、より楽しく、より快適にお買い物をしていただけるようにサービス向上・環境整備に努めています。

経常利益

約 **164** 億円

経常利益率

3.2 %

経常利益額は、全国の上場食品スーパーマーケット中、第2位です。



事業会社数 **10** 社

小売事業店舗数 **344** 店舗

小売店舗ブランド数 **31** ブランド

北海道・東北地方に、
地域特性に応じた店舗ブランドを展開しています。
※事業会社数、店舗数、ブランド数は2019年9月1日現在

食品売上高の地域別シェア

北海道 **25.5** %

青森県 **29.7** %

岩手県 **40.7** %

北海道、青森県、岩手県で市場シェア1位を獲得しています。
※2017年度実績。当社推計



アークスRARAカード会員数

約 **293** 万人

グループ統一のポイントカード「アークスRARAカード」は
お客様のライフスタイルに合わせて5種類をご用意。
さまざまな企業とのポイント提携も進めています。



従業員数(パートナー社員含む)

19,576 人

2万人近くの力を結集しながらお客様第一主義を徹底。
※2019年2月28日現在のアークスグループの従業員数に、
2019年3月31日現在の株式会社伊藤チェーンの従業員数を加算した人数
※パートナー社員は、8時間換算した12カ月平均の人数



社歴

平均 **60** 年

それぞれの地域でお客様からご支持をいただき、
長く経営している事業会社が多いのが特徴。
株式会社道東アークスの前身である道東ラルスは106年前、1913年創立です。

一株当たりの年間配当金

50 円

配当性向 **27.2** %

株主の皆様への利益還元を経営の最重要政策のひとつと位置づけ、
一株当たり利益の増加と積極的な成果配分を基本方針としています。
配当性向は、連結当期純利益に対して30%を目標としています。



設備投資額

約 **131** 億円

厳選した立地への新規出店のほか、
既存店の改装や新システム導入へ積極的に投資し、
さらなる飛躍のための基盤整備に努めています。

アークスグループ

アークスグループは、北海道・東北に拠点を置くスーパーマーケット9社(※)とその他の事業会社1社を擁する食品流通グループです。株式会社アークスは、グループ全体の戦略を立案する純粋持株会社であり、各事業会社の親会社として、各社の株式を保有し、グループ全体の統括及び戦略の策定を行っています。事業子会社は、株式会社アークスの全体戦略の下、地域に根ざしたスーパーマーケット事業及び関連事業を行っています。

(※)2019年9月1日現在

コーポレートステートメント

「私たちは何のために存在するのか」という根本的な考え方を表明するコーポレートステートメントとして、「豊かな大地に輝く懸け橋(Bridge on the Rich Land for Your Life)」を定めています。これには各地域にドミナントエリアを築き、多くのお客様に対して新鮮で、安全・安心な食品を提供することにより、生産地とお客様を結ぶ懸け橋になりたいという思いと、同じ志を持って事業展開を進めていく地域企業同士が、海外流通資本も含めた大手企業に対抗していくための受け皿会社として、企業と企業を結ぶ懸け橋になりたいという思いが込められています。

豊かな大地に輝く懸け橋

Bridge on the Rich Land for Your Life

「八ヶ岳連峰経営」によるグループ運営

富士山のような高くて大きな企業体を目指す企業統合ではなく、持株会社の下、八ヶ岳連峰のように同じような高さの山々が横に連なって対等な立場で企業統治を図ることで、会社とお客様との距離を短く保ち続けながら、グループ全体の経営資源を特大化し、グループ基盤を拡充していきます。



(2019年9月1日より)

「八ヶ岳連峰経営」とは

2000年5月11日付日本経済新聞に掲載されたアサヒビール(株)前名誉会長故・樋口廣太郎氏の論説「新・日本型経営の確立急げ」の中で、「…富士山のような会社は見栄えはいいが、どうしても顧客との距離が遠くなり、その要求に細かく対応できない。これからは八ヶ岳連峰のように、ほぼ同じ大きさの会社が並ぶグループ経営が求められる。…」から引用し、「富士山のような高くて大きな企業体を目指す企業統合ではなく、持株会社の下、八ヶ岳連峰のように同じような高さの山々が横に連なって対等な立場で企業統合を図ることで、会社とお客様との距離を短く保ち続けながら、グループ全体の経営資源を特大化しグループ基盤を拡充していく」というアークスグループのグループ運営の根底に流れる基本的な考え方です。故・樋口前名誉会長からは色紙にて「八ヶ岳連峰経営」の使用について許諾を得ました。

アークスグループの理念体系は、
「グループ理念」、「グループ運営方針」、「グループ行動指針」で構成されています。
グループとしての基本的な考え方となるグループ理念に基づき、
グループ運営方針とグループ行動指針を定めています。



アークスグループ理念

アークスグループは、グループ全体がどのような領域で社会的使命を果たすべきなのかを明確にする基本的な考え方として、「地域のライフラインとして価値ある商品・サービスを低価格で提供し、豊かな暮らしに貢献する」ことを、グループ各社が共有するアークスグループ理念として掲げています。「ライフライン」とは、通常、生活基盤となる社会的ネットワークシステム（電気・ガス・水道など）を指しますが、食品流通も生活・生命を維持するための重要な社会的インフラであるという考え方に基づいています。

アークスグループは、地域のライフラインとして
価値ある商品・サービスを低価格で提供し、豊かな暮らしに貢献します。

アークスグループ運営方針

アークスグループはさまざまな企業の集合体であり、根本の理念は共通であっても、各企業が多様な文化も持っています。そのような中で、グループとして統一した行動、活動を行うためには、基本となる考え方が必要不可欠であり、次のように運営方針を定めています。

1. お客様第一主義の徹底
2. 「八ヶ岳連峰経営」による運営
3. 健全な経営と着実な成長
4. ロープライス、ローコストの追求
5. 情報の公開とコンプライアンス

アークスグループ行動指針 (Arcs Way)

グループ理念、グループ運営方針を具現化するために、「行動指針 (Arcs Way)」を定めています。従業員一人一人が日々の業務の中で行動指針を念頭に置いて行動することにより、グループ理念の実践が図られると考えています。

- 私たちは、
1. お客様のために考え、行動します
「私たちは常に、お客様のことを考え、お客様に満足していただくために行動します。」
 2. 損得より善悪で判断します
「私たちは常に、法令及び社会的規範を遵守し、高い倫理観を持って活動します。」
 3. 安全・安心・快適な暮らしに貢献します
「私たちは常に、安全・安心な商品・サービスを提供し、地域社会に貢献します。」
 4. 互いを尊重しあい、誠実に対応します
「私たちは常に、株主、お取引先、社員、家族を尊重し、誠実に対応します。」
 5. 自ら考え、夢の実現に向け、挑戦します
「私たちは常に、自ら考え行動し、働く喜びを感じながら、大きな夢の実現に向けて努力します。」

M & A
Mind&Agreement
(心と意見の一致)

一般的なM&Aは「Mergers & Acquisitions (合併・買収)」を指しますが、アークスのM&Aは「Mind & Agreement (心と意見の一致)」を意味します。



ダイマールスーパー山鼻店(1号店)
1961年11月開店

1987年

7月
大丸建装(株)(現(株)エルディ)に資本参加し、子会社とする

1989年

2月
(有)イワイ(現(株)イワイ)に資本参加し、酒類販売事業の子会社とする

3月
衣料品量販店「金市館」を運営する丸友産業(株)と合併し、商号を大丸スーパー(株)から(株)ラルズ(現(株)アークス)に変更
本社を北海道札幌市豊平区平岸1条1丁目へ移転

1995年

11月
(株)イチワに資本参加し、子会社(現(株)道東アークス)とする

1996年

3月
(有)ライフポートを医薬品販売事業の子会社(現(株)エルディ)とする

1997年

12月
(株)三島より(株)道北ラルズ(現(株)道北アークス)にて8店舗を譲り受ける

2000年

12月
(株)ホームストアに資本参加し、子会社とする



アークスグループ誕生
株式会社アークス設立

2002年

11月
(株)ラルズから商号を(株)アークスに変更するとともに純粋持株会社へ移行
同日、会社分割により営業のすべてを承継した(株)ラルズを設立
同日、(株)福原の全株式を株式交換により取得し、子会社とする

2004年

2月
(株)北海道流通企画を完全子会社とし、商号を(株)道南ラルズに変更

10月
(株)ふじの全株式を株式交換により取得し、子会社とする



2005年2月期
売上高
2,000億円
突破

2009年

10月
(株)札幌東急ストア(現(株)東光ストア)の全株式を取得し、子会社とする



2011年

10月
(株)ユニバースの全株式を株式交換により取得し、子会社とする

11月
(株)篠原商店(現(株)道東アークス)の全株式を取得し、子会社とする

2012年

9月
(株)ジョイス(現(株)ベルジョイス)の全株式を株式交換により取得し、子会社とする



2011年2月期
売上高
3,000億円
突破

2013年2月期
売上高
4,000億円
突破

2014年

9月
(株)ベルプラス(現(株)ベルジョイス)の全株式を株式交換により取得し、子会社とする



2016年2月期
売上高
5,000億円
突破

2019年

9月
(株)伊藤チェーンの全株式を株式交換により取得し、子会社とする



誕生までの軌跡

一軒の店から始まったアークスグループ。「お客様第一主義」の姿勢は当時から変わることなく引き継がれています。



グループ各社のなりたち

1913年

7月
⑥渡辺商店(現(株)道東アークス)開業(創業)

1928年

4月
一戸商店(現(株)ベルジョイス)開業(創業)

1947年

7月
福原商店(現 鹿追店)開業(創業)

1951年

1月
(株)一戸商店(現(株)ベルジョイス)設立

1953年

4月
(株)篠原商店(現(株)道東アークス)設立

1958年

5月
(株)福原商店(現(株)福原)設立

1961年

10月
(株)ダイマールスーパー(現(株)アークス)設立
本社：北海道札幌市南13条西9丁目716番地

1964年

11月
(株)ダイマールスーパーから商号を大丸産業(株)に変更

1965年

5月
(株)ふじ(現(株)道北アークス)設立

1966年

5月
大丸建装(株)(現(株)エルディ)設立

1967年

10月
(株)ユニバース設立

1969年

8月
大丸産業(株)から商号を大丸スーパー(株)に変更

1970年

11月
協同組合ベルマート商品センター(現(株)ベルジョイス)を設立

1972年

7月
(株)定鉄商事(現(株)東光ストア)設立

1980年

6月
大丸スーパー(株)が(株)シジシージャパンに加盟

1989年

6月
(株)福原商店から商号を(株)福原に変更

1991年

12月
大丸建装(株)から商号を(株)エルディに変更

1993年

7月
(株)ラルズ(現(株)アークス)が日本証券業協会に株式を店頭登録

1994年

3月
(株)福原が日本証券業協会に株式を店頭登録

1995年

10月
(株)ジョイス(現(株)ベルジョイス)が日本証券業協会に株式を店頭登録

1995年

11月
(株)ふじ(現(株)道北アークス)が日本証券業協会に株式を店頭登録

1998年

9月
(株)角幡商店より5店舗を買収し、(株)道北ラルズ(現(株)道北アークス)にて運営
(株)ユニークショップつしまと共同出資で(株)北海道流通企画(現(株)道南ラルズ)を設立

誕生から飛躍へ

志を同じくする企業同士が目標達成に向かって進むM&A【Mind&Agreement(心と意見の一致)】の精神で飛躍的な成長を続けています。

2003年

3月
アークスグループ統一の新情報システム「e-ARCS」を立ち上げる

2004年

3月
(株)アークスが東京証券取引所市場第二部に株式を上場

2005年

2月
(株)アークスが東京証券取引所市場第一部銘柄へ指定

2007年

4月
(株)ユニバースが東京証券取引所市場第二部に株式を上場

2008年

3月
(株)ラルズが(株)ホームストアを吸収合併

4月
アークスRARAカードを発行し、ポイントサービスを開始

6月
(株)エルディがホームセンター(カインズ)事業に進出

10月
(株)アークス・(株)ラルズの本社を北海道札幌市中央区南13条西11丁目2番32号(現在地)へ移転



12月
(株)ユニバースが東京証券取引所市場第一部銘柄へ指定

2010年

2月
(株)アークスが札幌証券取引所に株式を上場

2011年

10月
アークスグループの新基幹システム「アークス次世代システム」稼働

2012年

7月
(株)ふじと(株)道北ラルズが合併し、商号を(株)道北アークスに変更

10月
アークス事務棟完成「アークス事務集中センター」を新設

2013年

12月
(株)エルディが(株)ライフポートを吸収合併

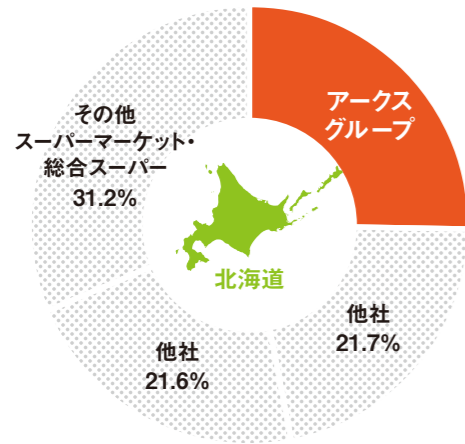
2014年

9月
(株)ユニバースが(株)リッツコーポレーションを吸収合併

(株)イワイの酒類販売事業を(株)ラルズへ移管

アークスグループは北海道・青森県・岩手県でナンバーワンの市場シェアを獲得しています。
 そのスケールメリットを生かし、各地でエリアドミナントを築くアークスグループの食品スーパーマーケットは、暮らしに密着した商品とサービスを地域の皆様にお届けしています。
 今後、さらなる事業拡大を目指すとともに、地域のライフラインを守る旗手として“地域ナンバーワンの店づくり”を進めています。

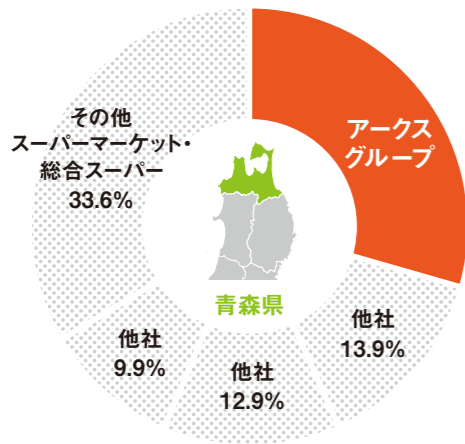
アークスグループの市場シェア



北海道 市場規模:1兆1,000億円

25.5%

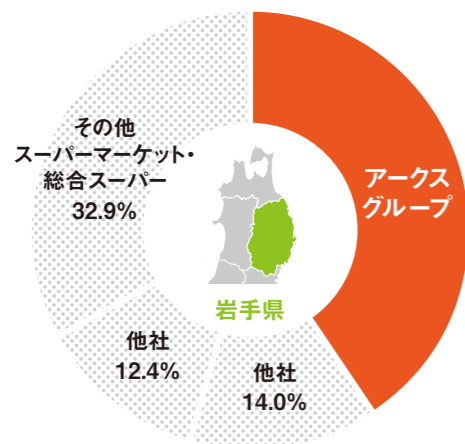
ラルズ	10.9%	東光ストア	3.2%
道北アークス	3.8%	道南ラルズ	2.1%
福原	3.7%	道東アークス	1.8%



青森県 市場規模:2,700億円

29.7%

ユニバース	29.3%
ベルジョイス	0.4%

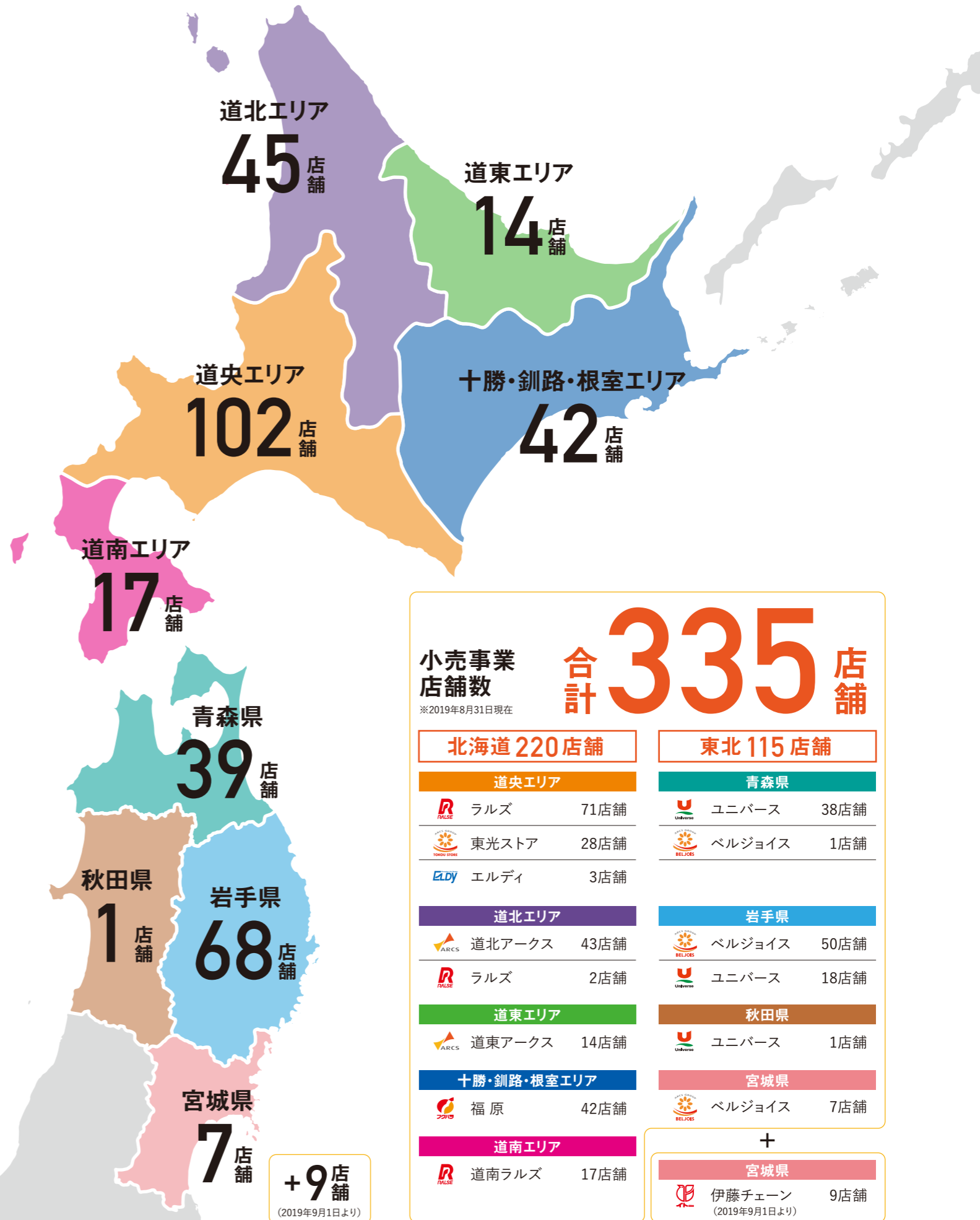


岩手県 市場規模:2,400億円

40.7%

ベルジョイス	26.8%
ユニバース	13.9%

※食品売上高のシェア。「2018年食品スーパーマーケット年鑑」を基に当社推計



小売事業
店舗数

※2019年8月31日現在

北海道 220 店舗	東北 115 店舗
道央エリア	青森県
ラルズ 71 店舗	ユニバース 38 店舗
東光ストア 28 店舗	ベルジョイス 1 店舗
エルディ 3 店舗	
道北エリア	岩手県
道北アークス 43 店舗	ベルジョイス 50 店舗
ラルズ 2 店舗	ユニバース 18 店舗
道東エリア	秋田県
道東アークス 14 店舗	ユニバース 1 店舗
十勝・釧路・根室エリア	宮城県
福原 42 店舗	ベルジョイス 7 店舗
道南エリア	+
道南ラルズ 17 店舗	宮城県
	伊藤チェーン 9 店舗 (2019年9月1日より)

+9 店舗
(2019年9月1日より)

それぞれに存在感のある「八ヶ岳連峰」へ。 最大の経営資源である人材が、 事業伸展の鍵を握っています。

社会環境が大きく変化中、スーパーマーケット業界の動向をどのようにご覧になっていますか。

昨今はスーパーマーケットの再編が激しくなっています。東北地方では、小さなスーパーマーケットの統合や連合結成が目立っており、国内の他地域では、大手企業による再編も相次いでいます。

そうした動きから、スーパーマーケット業界が寡占化の方向に向かっていることは確かです。日本のスーパーマーケット業界はいずれ、十大勢力あるいはそれ以下に集約されていくのかもしれませんが、実際、ヨーロッパの情勢を見ても否定できない流れだと考えています。

これまでは、小さく売からスーパーマーケットであり、規模が小さいから小売業だったわけですが、その時代は完全に終わったと思います。変化が激しく数年後を見通すことが難しい状況ですが、2019年は日本にとって今まで以上に大きな変化がある年となるでしょう。アークスにとっても大きな変化が不可欠な年であり、

アークスのM&Aは「Mind & Agreement (心と意見の一致)」と表現され、地域の勝ち組企業が経営統合することで成長を遂げています。このビジネスモデルにどのような手応えを感じていますか。

私が社長を務めているユニバースがアークスと経営統合したのが2011年。勝ち組企業同士が経営統合するというビジネスモデルは、経営者としては選択肢の一つであったわけですが、当時は非常に珍しいケースだという見方が多く、驚きとともに歓迎されました。近年は小売業界においても業界再編の動きが加速し、M&Aのメリットが理解されるようになってきています。アークスのM&Aは救済型ではなく、各社の独自性を尊重しつつ、優れたノウハウを共有することによって、互いに良いところを取り入れていこうということを基本的な考え方として持っています。またグループ規模のメリットを生かすことにより、さまざまな面でコスト削減につながります。今後も地域に密着したスーパーマーケットを継続して運営していきたいという経営者が、参加しやすいという点で、良いビジネスモデルだと考えています。

八ヶ岳連峰経営をさらに進化させていくうえで、今後どのようなことが必要だとお考えですか。

「八ヶ岳連峰経営」は、富士山のように大きな企業体ではなく、同じくらいの高さの山々、つまり事業会社が地域のお客様との距離を短く保ち、事業会社同士が互いに協力し合いながら発展することを目指しています。ただし、別の見方をすれば、八ヶ岳連峰は富士山ほど高くはなくても、3,000mに届きそうな山々が多く、それなりに高さが必要といえます。

その意味で、将来にわたって成長していくためには、事業会社同士が依存し合うことなく、それぞれの地域で成長して存在感を増していく気概と覚悟が必要だと思います。

そして、事業が伸びるか伸びないかは、すべて人にかかっています。アークスの最大の課題は、人材の「層の厚さ」を確保することだと思っています。

人材教育という面では、私は教育とは「人材」を「人財」に変えるための投資であると考えています。小売業は売上規模に比べて店舗数が多いため、会社の方針や施策を徹底するのが難しい。だからこそ、人材教育が非常に大切です。

実際、私自身はそうした考えで人材教育に力を入れてきましたし、アークスグループでも、人材を最大の経営資源と考えて人材教育システムを構築しています。



株式会社アークス 代表取締役会長 **三浦 紘一** Koichi Miura

1939年 青森県八戸市生まれ
1967年 (株)ユニバース設立、代表取締役社長に就任(現任)
2011年 (株)アークス代表取締役会長に就任(現任)



株式会社アークス 代表取締役社長 **横山 清** Kiyoshi Yokoyama

デジタル革命を乗り越え、次なる目標の実現へ。 激変する時代に対応しつつ、 人の心を大切にす企業として成長を続けます。

ハケ岳連峰経営を支えるアークス式M&A

当社が「ハケ岳連峰経営」によるグループ運営を進める中で、大事にしている考え方というのが「M&A=Mind & Agreement(心と意見の一致)」です。M&Aは一般的には「Merger & Acquisition(合併・買収)」を指しますが、私たちの考えにあるのは、企業規模を拡大することを目的とした効率主義的なM&Aではありません。グループ会社がお互いに心と意見を一致させながら、共に成長していくことを目指しています。

事業を継続するために効率は大事ですが、それだけ

ではなく、お互いの存在を尊重し合うことが前提だと思っています。ですから、物事を決めるには納得するまで議論をし、一度決めたらお互いにそのことを守って前へ進む。こうした歩みを続けていけば、私たちの理想とする企業の形ができていくだろうと考えています。

デジタル革命を乗り越え1兆円企業を目指す

アークスグループは、2016年2月期に売上高5,000億円を達成しました。巨大な資本を持つ流通大手に負けないためには、ある程度大きな企業規模も必要です。規

模を生かすことにより、コストを減らすことができ、新しい取り組みに投資することもできます。企業の成長の壁といわれる「1・3・5の壁」で言えば、5,000億円突破後の次なる「1」として1兆円を目指そうと、「Try, One Trillion!(1兆円)」をスローガンとして取り組んでいます。

そこで、私たちの成長を支える次期システムを構築するため、アークスグループでは「システム統合基盤構築プロジェクト」に5年がかりで取り組んできました。将来のために私たちのチャレンジ精神を具体化したものもあります。この新システムが2019年秋に本格稼働する予定です。

これは、今後10年に向けたアークスグループの成長と存続を支えるシステム統合基盤を構築する取り組みです。新システム構築と並行して、商流改革、物流改革などによる定量的な効果創出に向け、業務改革・組織改革を断行するトランスフォーメーション計画にも取り組んできました。これらの取り組みにより、独自の食文化、地域性、商習慣が多い日本のスーパーマーケット業界において、統一化すべきところはしながらも、各社の営業の独自性を担保し、ハケ岳連峰経営をさらに進化させる新システムとなっています。今後グループ入りする企業を迎え入れる場合には、迅速かつ容易に対応できるなど、拡張性も備えています。この新システム構築は、激変する環境の中で、1兆円グループに向けた布石でもあります。

2019年の年頭方針には「Try, One Trillion!(1兆円企業を目指し) 地方同盟の資源叡智を結集し デジタル革命をこえ 人心時代を築く」と掲げました。店舗型の小売業が生き残るための必要条件は、リアルとデジタルを融合させた仕組みを構築することです。今、私たちは、そのスタートラインに立っています。新たな業界標準のプラットフォームとなり得る新システムの本格稼働を通じて、地域のライフラインとしての使命を果たしていきます。

激変する時代に対応する新たな企業連携

私はスーパーマーケット業界に関わって58年目を迎え、現役の社長としては全国で最古参です。約30年前に信用調査会社が発行した資料を読み返してみると、当時、北海道のスーパーマーケットは100社以上ありましたが、上位ランキング50社に名を連ねていた企業のうち、現在も残っているのは約10社だけでした。それだけ業界再編が進んでいるといえます。地方の流通小売業界は、経営環境の変化に機敏に対応していくことが求められています。

そうした経営戦略の一環として、アークスは2018年12月、株式会社パローホールディングス(岐阜県)、株式会社リテールパートナーズ(山口県)との3社間で資本業務提携契約を結び、「新日本スーパーマーケット同盟」を結成しました。3社がそれぞれの経営資源・ノウハウを有効活用し、地域を代表する流通小売業の結集軸となることを表明しました。地域ナンバーワンだけでは通じない、規模の利益だけでも勝ち残れない状況がある中で、北海道から九州まで列島を縦断する連携を実現したことになります。経営統合を前提としたこれまでの連携とは異なり、新たな枠組みによる連携を進めることで、地方の流通小売業界をリードしていきます。



利他の心を大切に成長し続ける企業へ

どんなに科学技術が進化しても、人間あっての社会です。私は最終的には「人心の時代」だと思っています。私は他の人の幸福や利益を第一に考えることのできる「利他の心」が大事だと普段から言っており、損得よりも善悪で判断することを重視しています。人の心と心のふれあいが、日々生きていくうえでも経営においても基本であり、企業の存在意義は、社会的正義と人間社会に貢献することにあると考えています。

実際、インターネットで簡単に物が手に入る時代であっても、人のいる場を求めてスーパーマーケットに来るお客様はたくさんいらっしゃいます。無人レジよりも、レジに立つ人の笑顔が見たいという気持ちが、来店動機のひとつになっているのです。

デジタル革命に対応することも大事ですが、人の心とのバランスを取ることも大事だと考えています。

新たなスタートの年

2019年10月には消費増税が予定されており、その後

の変化には危機感を抱いています。1989年に消費税3%が導入された後は消費者の買い控えが起き、その後、全国で百貨店や大型店が苦戦するようになりました。1997年に消費税が5%に上がった後、消費増税だけが理由ではありませんが、金融機関や流通大手の破綻が起きました。2014年に消費税が8%に上がった後は、小売業界では業態を超えた経営統合や再編が進行し、ECビジネスが台頭してきました。過去を振り返ると、消費増税を機に業界再編が進んできました。今回は増税に加えて、原価や人件費などコスト上昇の問題、また大手小売業の地方を軸とした統合・再編計画もあり、環境が大きく変わると予想しています。そして、これらが企業格差を広げるきっかけとなり、業界再編が加速すると考えています。

このような年に、私たちは新システムを稼働して新たな八ヶ岳連峰経営を始動し、新日本スーパーマーケット同盟の取り組みも加速していきます。アークスグループは新たなスタートを切ることになります。



株式会社アークス 代表取締役社長
横山 清
 1935年 北海道芦別市生まれ
 1985年 大丸スーパー(株)
 代表取締役社長に就任
 2002年 (株)アークス
 代表取締役社長に就任(現任)

グループシナジーを高め、
 お客様により良い商品・サービスを。

アークスグループでは、各社が培ってきた商品政策のノウハウや販売力を結集し、ロープライス、ハイクオリティの商品・サービスをご提供し続けます。





9月6日地震当日のビッグハウスアドマーニ(道南ラルズ)での店頭販売開始直後のようす。同店では、7時30分頃より店頭販売の準備を行い、8時には営業を開始しました

特集 01 北海道胆振東部地震レポート

地域のライフラインとして アークスグループの結束力を発揮

2018年9月6日3時7分、北海道胆振東部地震(M6.7)が発生しました。その影響により、北海道は、ほぼ全域で停電となる国内初のブラックアウトに見舞われました。こうした状況下で「お客様第一主義」を貫いたアークスグループの動きをお伝えします。

多くの店舗で店頭販売を実施

北海道胆振東部地震が発生した9月6日未明、道内のアークスグループ各店舗は、24時間営業店舗や深夜も稼働しているセンターを除きほとんどが閉店していました。従業員の多くは就寝中、緊急地震速報とともに激しい揺れに襲われ、その後、3時25分、道内の約295万戸が停電し北海道は日本史上初のブラックアウト(大規模広域停電)に見舞われました。

道内各社では、携帯電話などで従業員の安否確認を開始し、夜明けを待たずに各本社に対策本部が置かれました。対策本部は各店舗へ被害状況と従業員の安否確認ができ次第、本部からの指示を待たずに「災害時だからこそ、地域のライフラインとしてお客様の暮らしをお守りしよう」と自主的に店頭販売の準備を開始した店舗もありました。停電中にもかかわらず朝

9時ごろまでには、多くの店舗で店頭販売を開始し、停電の復旧が早かった道北アークスの3店舗は通常営業を行いました。

また、ラルズの生鮮品を扱うセンターでは、停電中の措置として、トラック120台のうち90台を冷蔵庫代わりにし、残りのトラックで各店に配送するなど、商品の品質を保つ工夫が行われました。

信号が消え、公共交通機関はストップし、店舗に向かう手段を失っても、多くの従業員が店舗や本社に出勤しました。当日は休日の予定でも、店舗の様子が気になり自主的に出勤した従業員もいました。

店舗にはさまざまな被害が出ました。札幌市清田区里塚地区では液状化現象が発生し、ラルズが運営する同地区のビッグハウス里塚店では駐車場の地面が大きくうねる被害が発生しました。その他の地域でも、天井が大きく崩れたり、商品が陳列棚から落ちて破損・散乱した店舗もありました。

非常時に発揮されたグループの結束力

地震翌日には、ユニバースが道南ラルズへカップ麺を緊急輸送しました。「緊急災害輸送車」と明示された10トトラック1台にカップ麺1,200ケースを積載し、フェリーで輸送。地震2日後には道南ラルズ各店舗に配送され、お客様の手元にお届けすることができました。アークスグループの結束力を再確認しただけでなく、東日本大震災を経験した東北のアークスグループの総力が発揮された出来事でした。



ユニバースの緊急災害輸送車

また、翌週の9月15日、グループ内では初めて、事業会社2社が連名で折り込みチラシを配布しました。同じ札幌圏を商圏とするラルズと東光ストアは、平時はライバルとして切磋琢磨していますが、チラシ上で初めて名前を連ねたことにより、2社が同じグループだと認識していなかったお客様やお取引先様に大きなインパクトを与えました。

地震を機に、アークスグループでは大規模災害の発生時に優先すべき業務の整理や復旧に向けた手順、人員配置などをまとめたBCP(事業継続計画)の見直しを行いました。従来のBCPでは災害発生時の緊急対応マニュアルを整備していましたが、ブラックアウトは想定されていませんでした。新しいBCPには停電に関するマニュアルも加え、緊急事態にもさらに対応しやすい仕組みを整えました。



アークス・ラルズ本社1階には、社長の横山直筆の「北海道地震対策本部」と彫られた大きな看板を設置しました。現在も“碑”として本社玄関横に掲げています



2018年12月15日、北海道胆振東部地震における飲食料品調達支援に対し、農林水産大臣より株式会社アークスに感謝状が授与されました

「がんばる北海道」を合言葉に

地域のライフラインとしての役割を果たすため、「お客様も我々も、北海道の皆さんと一緒にがんばる」という気持ちで、「がんばる北海道」と書かれた社長の横山直筆のメッセージを店舗に掲げました。



「がんばる北海道」を掲げた店舗(札幌市、株式会社ラルズ)

改装オープン前後の非常事態を 店のチームワークで乗り切りました。

株式会社ラルズ スーパーアークス宮の沢店 山崎 秀和

当店は1992年に開業。地震が発生した9月6日は、改装オープンを翌日に控えたタイミングで、本来は休業日でした。アークスグループでは、こうした非常時であっても安全が確認できるならば、地域のお客様のために店を開けるという方針が浸透しており、私も店長として責任を果たそうという気持ちで未明に店へ駆けつけました。

6日は朝早くからお客様が並び始め、従業員10人で7時30分にオープン。お客様1人から従業員1人が付き、電卓で精算の対応をしました。通電は翌7日深夜で、それまでは会計や現金管理に多くの人手を要しました。

改装オープンは当初予定していた9月7日から1日遅れの9月8日となりました。停電後2日間で品切れになった商品もありましたが、生鮮品は当社が直接仕入れをして



いることから豊富に店頭に並び、お客様には非常に喜んでいただけました。また、パンはどこのスーパー、コンビニでも売り切れ状態で、常に焼きたてパンが並ぶ当店のベーカリーは、客足の絶えない盛況ぶりでした。

非常時にもかかわらず、地域のお客様に多くの商品をご提供することができたのは、心を一つにして頑張ってくれた従業員のおかげです。地域のライフラインとしての使命を再認識し、今後も明るく元気に営業を続けていきます。



2018年のヒット商品「アントニオ デニロスパゲティ」。株式会社シージージャパン様との共同企画で、イタリア工場を視察するなど高品質・低価格にこだわって販売を強化。CGCグループ加盟企業のパスタカテゴリーの販売金額No.1商品

特集 02 トランスフォーメーション計画

さらなる飛躍のために 業務プロセス・事業構造を大改革

アークスグループでは、八ヶ岳連峰経営をさらに進化・深化させるため、情報システム統合と並行して物流改革、商流統一など、事業構造を大改革するグループ横断的な取り組みを推進しています。「トランスフォーメーション計画」と名付け、すべての事業会社、すべての部署が連携してさまざまな新規プロジェクト構築に挑んでいます。

アークスグループのさらなる飛躍の基盤 「システム統合基盤構築プロジェクト」

「トランスフォーメーション計画」の土台となる「システム統合基盤構築プロジェクト」は、アークスグループ発足以来、最大の投資となる一大事業です。

世界的な統合型パッケージソフトウェア(ERP)である「SAP」を全面導入し、5,000億円を超える規模の企業グループで社内システムを統一し、すべての情報を一元管理することは全国でも類例のない初の試みです。前例のない挑戦に取締役会ではさまざまな意見が出ましたが、これからのグループが「どうあるべきか」の視点に立ち、最終的に導入することを決定しました。

地域密着というグループ各社の強みを残しながらシステム統合による標準化に取り組み、食品スーパーマーケットの業界標準を確立することで、さらなる業容拡大に寄与することを目

的としています。システム構築の過程で「どうあるべきか」という視点から、これまでの仕事の進め方や組織についても見直す大改革に取り組むこととなりました。

統合運用されるシステム機能領域は、スーパーマーケットの営業活動の基本業務を支える「MD(マーチャンダイジング)領域」をはじめ「財務会計」「人事・給与システム」「情報分析」の領域におよび、グループが営業活動を展開するために必要なほぼすべての領域を網羅します。各事業会社を横並びで比較するための「モノサシ」を統一することで、今後M&A(Mind & Agreement)によって八ヶ岳連峰経営に参画する新パートナー企業ともグループメリットの共有がスムーズになります。

5年半にわたったシステム構築・トレーニング期間を経て2019年10月に新システムの運用を開始します(予定)。お客様第一主義を貫く人の力と技術革新を融和させるという、私たちの信念が具体的に動き始めます。

システムの全体概要と機能配置

領域	SAP	SAP以外	各社の既存システム	
MD	<ul style="list-style-type: none"> マスタ関連 <ul style="list-style-type: none"> 統合商品マスタ ミックスマッチ(MM)他 販促業務 <ul style="list-style-type: none"> 特売/本部インプロ/重点/先日付等 発注/仕入 <ul style="list-style-type: none"> 本部発注、DC在庫 自動発注 検収/返品 	<ul style="list-style-type: none"> 本部MD予算 <ul style="list-style-type: none"> 日別予算参考情報登録 営業数値予算取込み 店舗業務 <ul style="list-style-type: none"> 日別予算 売価設定(東北のみ) 現在売上照会 作業依頼書 値上下/廃棄 振替(店間・デパート間・経費) 棚卸 	<ul style="list-style-type: none"> 店舗業務(発注・棚卸他) <ul style="list-style-type: none"> EOB、PDA 予約販売 <ul style="list-style-type: none"> オムニECシステム マスタ連携 <ul style="list-style-type: none"> 計量器サーバー eBASE(NB/デリカ) 取引先向けEDI <ul style="list-style-type: none"> 流通BMS Web-EDI 	<ul style="list-style-type: none"> POS POP 計量器 各社センター 値下バーコード バーコードラベラー
会計	<ul style="list-style-type: none"> 総勘定元帳 債権管理 債務管理 管理会計 予算管理 精算日報 	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産管理 テナント管理 借入/貸付金管理 経費購買 立替経費精算 連結決算 子会社/孫会社会計 		
情報分析	<ul style="list-style-type: none"> 売上管理 荒利益管理 荒利益計算表 損益管理表 MH管理表 分類/単品分析 時間帯(加工数) 特売企画 単品在庫 鮮度/品切れ 棚卸実績 取引情報 値入率 自動発注活用 		<ul style="list-style-type: none"> 各社固有の分析システム 	
人事		<ul style="list-style-type: none"> 人事、給与、就業 	<ul style="list-style-type: none"> 打刻、LSP(暫定) 	

新システム構築と並行して 物流改革を推進

アークスでは、2013年にグループの物流戦略の企画・立案を担うロジスティクスグループを新設しました。仕入先からセンター、店舗への配送をはじめ店舗内での廃棄物処理、カーゴや什物の回収までを「物流」の役割と位置づけ、配送業者とともに配送の効率化、コスト削減などに取り組んでいます。

また、ロジスティクスグループは新システム構築と並行して配送の一元化、センター機能の効率化、モーダルシフトなどを推進しています。物流改革第1弾として、2018年6月から同じ札幌市内に店舗を持つ株式会社ラルズと株式会社東光ストアの一部商品の配送を一元化しました。それまで両社が独自に走らせていた配送車両の荷物を共同配送にすることで積載効率が高まり、車両台数の減少につながりました。さらに、各エリアでのセンターの活用にも取り組み、株式会社ラルズではデリカセンターの機能を一部拡充し、株式会社道南ラルズでも2018年10月にデリカセンターを新設・稼働しました。

今後は、物流に関する改善案をグループ全域に広げていくために各事業会社、アークスの関係部署と連携して改革を促進していきます。



株式会社ラルズ 青果生鮮センター

商流統一、商品調達力強化による グループシナジーの追求

アークスグループのスケールメリットを生かした商品調達を行うため、アークス商品調達グループに専任者を配置しています。安定供給とローコストの仕組みを構築して、各地域の特性を生かした地域密着の品揃えを維持しながら共同仕入れの利点を発揮できる商品を選択し、お客様に価値ある商品をより安くお届けできるよう努めています。

共同仕入れ商品の選択については、毎月1回、各社商品部の責任者による商品調達プロジェクト会議において協議するほか、各社のバイヤーの意見も取り入れています。商品調達グループでは、各店舗での売場展開の状況やお客様の反応などを把握して各社へ販促活動のアドバイスをするとともに利益向上につながった好事例・ノウハウを提供しています。

また、2018年11月にはグループシナジーのさらなる追求のため、スーパーマーケットを運営する事業会社8社の特定カテゴリーにおける主要部門の仕入れ先を統一しました。各メーカー様とも綿密な商談と継続的な取引で信頼関係を築き、アークスの関係部署や株式会社シージージャパン様とも連携して、こだわり商品の発掘などにも力を注いでいます。

今後は共同仕入れの商品カテゴリーを広げることでグループシナジーを高め、お客様により良い商品、サービスをご提供していきます。



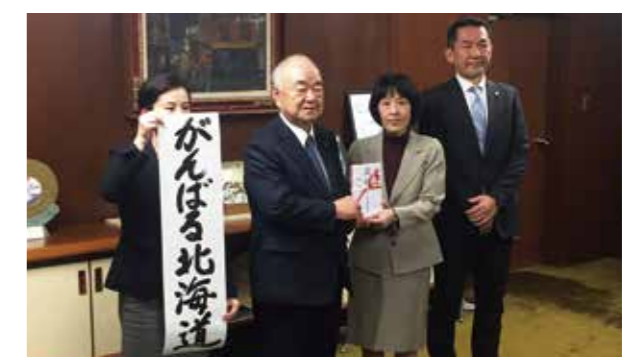
毎月1回開催している商品調達プロジェクト会議



2018年10月2日サッポロビール株式会社様との共同企画であるサッポロ生ビール黒ラベル「温泉缶」の記者発表のようす

北海道150年事業のパートナー企業としてサッポロビール株式会社様と共同企画

2018年、「北海道」と命名されてから150年目を記念し、北海道庁と民間企業・団体が協力して「北海道150年事業」を行いました。アークスグループもその趣旨に賛同し、道内でスーパーマーケットを運営する事業会社6社が「パートナー企業」として参画しました。事業のひとつとしてサッポロビール株式会社様とサッポロ生ビール黒ラベルのオリジナルデザイン缶を共同企画し、東北も含めたアークスグループ酒類取扱い店舗で販売しました。2018年2月の第1弾では北海道の名産品イラストと“ARCS LOVES HOKKAIDO”のメッセージが付いた「北海道名産缶」を販売し、同年10月の第2弾は「温泉缶」の発売とともに温泉宿の宿泊ペアチケットが当たるキャンペーンも展開しました。さらに北海道胆振東部地震の復興支援金として1缶1円を寄付し、「がんばる北海道」を合言葉として地域活性化の応援に努めました。また、2019年4月には第3弾として「花火缶」を発売し、北海道と東北の花火大会チケットが当たるキャンペーンのほか、絶滅危惧種の天然記念物・シマフクロウの保護活動として1缶1円を寄付するなど、地域創生に資する活動を行っています。



「温泉缶」北海道胆振東部地震復興支援金贈呈式



北海道の食の豊かさをデザインした「北海道名産缶」

特集 03 グループ価値共創の取り組み

多彩な企画・サービスでお客様の豊かな暮らしに貢献

私たちは、お客様に喜んでいただきながら活力ある地域社会の実現に貢献できるよう、キャンペーンなどを通じた地域創生活動を展開しています。お取引先様とも積極的に連携しながらオリジナル商品企画、豊かな食生活提案に力を入れています。

毎月第3日曜日「道民家庭の日」を応援

アークスグループでは、公益財団法人北海道青少年育成協会が推進している毎月第3日曜日の「道民家庭の日」の趣旨に賛同し、スーパーマーケットチェーンとしては初めて、2017年より北海道内のスーパーマーケット6社にて家族団らんをより楽しくする商品の販売・メニュー提案に取り組んでいます。毎月、簡単に調理できて話題性のあるレシピをメーカー様と共同で開発し、店内に専用コーナーを展開してご紹介しています。お客様からご好評をいただくとともに、お取引先様との連携強化や売上増にもつながっています。今後も取り組み内容を充実させて浸透を図り、ご家族のふれあいを深められる豊かな食生活づくりに貢献していきます。



TVCMでも「道民家庭の日」をPR

「道民家庭の日」とは
公益財団法人北海道青少年育成協会は2000年7月に開催した「青少年の非行防止道民総ぐるみ大会」において『家庭が果たす役割の重要性を再認識するため、家族団らんできる機会を持つ日として毎月第3日曜日を「道民家庭の日」とすることを提唱しました。北海道、北海道教育委員会、北海道警察本部とともに普及促進に取り組んでいます。

お取引先様との多彩なコラボセミナーを開催

アークスグループ各店舗では、イートインコーナーやコミュニティホールなどを利用してお取引先様と連携した多彩なセミナーを開催し、楽しく、実践的な講習内容に毎回多数のお客様が参加され、ご好評をいただいています。「美味しいコーヒーの淹れかたセミナー」「スパイス勉強会」などの食育に関するセミナーや「水分補給セミナー」「乳酸菌のお話」などの健康に関するセミナーを通じて、これからも地域のお客様の健康で豊かな生活に貢献していきます。



「スパイス勉強会」のようす(株式会社ラルズ)

RARAカードと連携した「アークスアプリ」の運用開始

スマートフォン、パソコンで利用できる「アークスアプリ」の運用を2019年1月より開始しました。アークスグループ統一のポイントカードであるアークスRARAカードの会員様は会員番号を登録するとポイント履歴、プリペイドカード残高などカードの使用状況をご確認いただけるほか、各店舗のチラシ情報や各種キャンペーンなどのおすすめ情報もご覧いただけます。さらに便利にお使いいただけるよう、今後も機能の充実に努めていきます。



アークスアプリ TOP画面



アークスアプリ おすすめ情報画面

各事業会社では、お客様第一主義を徹底的に追求した店舗を運営するとともに、地域社会と共生し、発展に貢献できるよう、さまざまなコミュニケーション活動を独自に展開。従業員の意識改革や新規サービスのご提供にも積極的に取り組んでいます。2018年度のトピックスを事業会社別にご紹介します。

株式会社 ラルズ

新店オープンでドミナント化を進め、こだわり商品を展開

2018年11月、ラルズとして4年4カ月ぶりにオープンした新店「スーパーアークス新琴似店」は、札幌市北区新川地区において「ビッグハウス新川店」「スーパーアークスエクスプレス」とともにドミナントエリアを形成し、3店舗が一体となって地域のお客様のニーズにお応えできる品揃えやサービスを提供しています。鮮度とおいしさにこだわった、水産コーナーの「おさかな食堂」「さかなやの寿司」はお客様から大変ご好評をいただいています。



株式会社 ユニバース

お客様の健康サポートに積極的に取り組み、減塩商品をメーカー様と共同開発・販売

顧客最優先を貫くユニバースでは、お客様の「健康寿命延伸」のため、健康サポートにも積極的に取り組んでいます。全店舗にポスターを掲出して具体的なサポート内容を紹介するほか、機能性表示食品などの関連商品も充実させています。2018年には東洋水産株式会社様と減塩カップ麺を共同開発し、8月から塩分25%カットの「激めんワンタンメン」シリーズを全店舗で販売しており、既存品よりもおいしいという声をいただくほどの人気です。今後も健康サポート活動を継続的に推進し、「健康寿命延伸」に取り組めます。



株式会社 ベルジョイス

ちびっこ健康マラソン大会を開催・運営し、東日本大震災孤児への寄付も継続

ベルジョイスでは、お取引先様が「21世紀を担う人づくり」をテーマに始めた「ちびっこ健康マラソン大会」に賛同し、1986年から毎年開催しています。33年間の完走者は64,642人となり、親子二代で参加した方も多数いらっしゃいます。2018年の大会は完走者2,605人で開催39カ所中、全国1位と最大規模となりました。また、完走者1人につき1,000円を岩手県が創設した東日本大震災孤児のための「いわての学び希望基金」へ寄付し、震災のあった2011年からの累計額は2,300万円を超えました。



株式会社 福原

地域の子ども豊かな生活を支える多彩な活動

徹底した地域密着を進める福原では、子どもたちを応援して暮らしや文化を支えていく活動に積極的に取り組んでいます。子どもたちに野球のおもしろさを体験してもらい野球人口を増やそうと「こども野球の日」を後援し、2018年は小学1年生から3年生の約500人の子どもたちが参加して野球とふれあいました。全国各地に広がる「こども食堂」の取り組みにも進んで参加し、食材の提供を通して子どもと地域とをつなぎ、豊かな食生活を実現できるよう力を注いでいます。



株式会社 道北アークス

ネーミングライツにより「道北アークス大雪アリーナ」の愛称を取得

旭川市を中心に店舗を展開している道北アークスでは、同市に貢献したいとの思いからネーミングライツ(命名権)により旭川大雪アリーナの愛称「道北アークス大雪アリーナ」を2018年3月に取得しました。旭川大雪アリーナは、スポーツ競技や文化行事などに幅広く使用される多目的アリーナをはじめ会議室、食堂などを開放し、市民生活の向上に寄与する施設です。道北アークスの名前を市民に認識していただき、社名や店舗により親しみを感じていただけるようこれからも地元応援に力を尽くしていきます。



株式会社 東光ストア

行政や企業と連携して地域セミナーを開催

お客様のお役に立てる店舗運営を進める東光ストアでは、各店舗で食育や健康に関する地域セミナーなどを積極的に開催しています。行政や企業と連携しながら、2018年度はのべ1,000人近くの方にご参加いただきました。オーラルケアなど関心の高いテーマを中心に正しい情報を伝えるとともに、商品の選び方・使用方法などをレクチャーしています。町内会に足を運んで告知するなど集客にも力を入れ、セミナー後は商品の売上アップにもつながっています。今後も企画内容を充実させ、地域とのつながりを深めていきます。



株式会社 道南ラルズ

本部事務所を移転し、同社屋でデリカセンターを稼働

お客様ニーズを的確にとらえた店舗を運営する道南ラルズは、北斗市追分でのデリカセンター稼働に先立ち、2018年5月に同社屋の2階に本部事務所を移転しました。函館外環道の追分ICに近いため函館市内店舗をはじめ地方店舗へのアクセスがスムーズな上に、近隣には主要なお取引先様の事務所・倉庫・センターも多く、利便性がさらに向上しました。同年10月からはデリカセンターが稼働し、店舗で販売する生寿司・おにぎりなどの製造を開始しました。



株式会社 道東アークス

北見市端野町産ぶどう100%ワイン販売に意欲

地産地消を推進する道東アークスでは、地元産ぶどう100%のワイン販売を2017年から始めました。北見市端野町緋牛内でぶどう栽培を行っている深田英明様の元に何度も足を運び、店舗での販売にこぎつけました。2018年は「桜初雫」の赤の辛口・白のスパークリングなど5種類、約1,600本が製造され、深田様の自宅前と道東アークスの店舗でしか手に入らない希少ワインとして商品価値が高まっています。今後も地元産にこだわり、お客様に喜んでいただける食材・商品の発掘に努めます。



株式会社 エルディ

旅行事業「アークストラベル」の運営を開始しオリジナル商品も企画

アークスグループのビルメンテナンス事業やホームセンター事業を運営するエルディでは、2018年9月に旅行事業を開始しました。札幌本店と帯広支店の2店舗で「アークストラベル」を運営、国内外の旅行予約や出張手配をはじめ国内大手旅行会社などのパッケージツアーを取り揃えるとともに「アークスRARAカード会員様限定ツアー」などオリジナル企画商品もご提供しています。今後もさらに魅力ある商品をご案内し、旅行やレジャーを通して人々の豊かな生活づくりに貢献していきます。



社会的使命を果たし、 あらたな価値創造へ

私たちはグループ理念やグループ運営方針、グループ行動指針を具現化するために、お客様や地域社会にいかに貢献できるかを考え、行動しています。グループ横断的な活動や各事業会社の取り組みをご紹介します。



社会の一員として お客様・地域と共有する価値を創出

「地域のライフラインとして価値ある商品・サービスを低価格で提供し、豊かな暮らしに貢献する」ことを理念として掲げるアークスグループでは、社会の一員としての責任を重視し、多様化する社会問題解決への期待に応えて、お客様・社会・地域と共有する価値をどのように描いていくかというテーマに向かっています。各事業会社が創業以来取り組んできたお客様サービスの向上や地域社会への貢献をさらに進化・深化させながら、グループ理念に根ざしたESG活動を推進していきます。



ESGの取り組み

お客様と地域社会により豊かな暮らしをご提案するために、私たちはE(環境)・S(社会)・G(企業統治)の取り組みを積極的に進めています。お客様と産地をつなぐ懸け橋として食品の安全・安心をお届けするとともに、環境保全や地域のコミュニティ活動に力を注ぎ、コーポレート・ガバナンス体制の構築などによってお客様・社会からの信頼に応えています。

Environment <環境>



自然を守り、地球の恵みを次世代へと引き継ぐことを大切な使命と考え、環境負荷を軽減するとともに多彩な環境保全活動に取り組んでいます。リサイクルを進める「3R運動」やレジ袋販売金額の寄付、グリーン物流などに努めています。

Social <社会>



各事業会社は事業を通してお客様・地域社会とのよりよい関係構築に努めるとともに、さまざまな社会活動や文化活動を応援しています。地域のライフラインとしての役割を担うために、災害支援体制づくりにも力を入れています。

Governance <企業統治>



八ヶ岳連峰経営のバックボーンとなるコーポレート・ガバナンス体制を整備して社会の幅広い信頼に応えるとともに、適時・適切な情報公開で経営の透明性を高めています。人材教育・ダイバーシティ推進にも前向きに取り組んでいます。

SDGsの取り組み

世界を変えるための17の目標

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)は、2015年9月に国連サミットで採択された、2030年までに全世界で取り組むべき目標です。17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことによって「誰も取り残されない」世界を実現しようという壮大なチャレンジです。アークスグループも今後積極的に推進していきます。

現在取り組んでいる活動については、次ページからそれぞれのマークを記載してご紹介します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



Social [社会]

安全・安心への取り組み

食品流通グループとして、安全で安心な商品を製造・販売することは最も重要な課題です。アークスグループでは2018年3月に「品質保証推進室」を新設し、自社製造商品の「品質方針」と「品質保証規程」を同年9月に制定しました。

アークス品質保証推進室を新設

品質保証推進室はアークスグループ各社の全店舗・センターでのHACCP(ハサップ)*1に基づく衛生管理システムを統一し、安全な商品の提供を推進する組織として新設されました。グループ内の品質に関するすべての情報を一元化するとともに、店舗で発生した事案に迅速に対応することで、お客様に安全な商品をご提供する体制を構築し、安心して購入いただけるよう活動することが、アークス品質保証推進室の役割です。加えて、各社から担当メンバーを選定し「品質保証推進

委員会」を定期的に行っています。委員会での議論内容を、従業員一人一人へ周知し継続的な活動に結び付けていくために、「QAP*(品質保証推進)ニュース」を発行し、勉強会などを実施して従業員への啓蒙活動に取り組んでいます。今後は、HACCP制度化が施行される2020年6月までにグループ全店・全センターへのHACCP導入に向けて、品質管理レベルと従業員意識のさらなる向上に努めます。

*1 HACCP…Hazard Analysis and Critical Control Point

食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因(ハザード)を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法です。

*2 QAP…Quality Assurance Promote、品質保証推進

アークスグループ 品質方針

アークスグループは、「グループ理念」「グループ運営方針」を具体的な行動に反映するための「グループ行動指針(Arcs Way)」を定めています。行動指針に則り、「安全・安心な商品」を具現化し、「お客様第一主義」の徹底を行うために、自社製造商品の品質方針を定めます。

*この方針に定める品質の定義は、「鮮度」「衛生」「表示」のことを示します。

記

- 1. 法令の遵守**
関連する法令はもとより、「アークスグループ 品質保証規程」を遵守致します。
- 2. 品質保証ネットワーク**
全てのスーパーマーケット事業で、自社製造商品の「品質に関する情報」を共有し、連携して「品質保証体制」を確立します。
- 3. 客観的評価**
外部機関による客観的評価を得て、「品質保証推進システム」を継続的に改善します。
- 4. 履歴管理**
自社製造商品の原料調達、製造、販売迄の履歴管理を推進します。原料調達は、お取引先様と定めた「安全・安心な原材料」を調達します。
- 5. お客様とのつながり**
お客様との対話を大切にし、お客様の求める「安全・安心な商品」として、自社製造商品の品質を追求します。

品質保証規程

自社製造商品の安全性・品質を守るために、アークスグループ全店・全センターで遵守するための「品質保証規程」をきめ細かく定めています。



品質保証推進室による品質検査



教育プログラムを作成し、店舗ごとに勉強会を実施

QAP(品質保証推進)ニュースの発行

品質保証についての基本的なルール、食中毒などの理解や重要度の再認識を促すために、「QAP(品質保証推進)ニュース」を2カ月ごとに発行しています。各店舗・センター・本部で情報を共有し、従業員の衛生意識の向上を図るためにイラストなどを用いてわかりやすく伝えていきます。



QAP(品質保証推進)ニュース

食品表示管理士が続々誕生

安全な商品を購入する判断材料の1つである「食品表示」の適正化を推進するため、一般社団法人全国スーパーマーケット協会(NSAJ)が認定する「食品表示管理士」の取得に取り組んでいます。アークスグループ各社の等級別有資格者合計人数は934人です(2019年2月現在)。



食品表示管理士 検定公式テキスト

「アレルギー27品目」の周知徹底

従業員一人一人が「アレルギー27品目」をしっかりと理解して、表示ミスが発生しないようにポスターを作成し、従業員が目にしやすい箇所に掲示しています。



アレルギーポスター

ラルズHACCPプロジェクト

株式会社ラルズでは、HACCP制度化に対応するため2016年11月に「ラルズHACCPプロジェクト」を立ち上げ、保健所と連携しながらラルズ・東光生鮮流通センターとラルズマート啓明店を皮切りに北海道HACCP評価取得に取り組んでいます。ラルズ・東光生鮮流通センター、ラルズマート啓明店では2018年に保健所評価基準の最高ランクを取得しました。今後、デリカセンターでの完全取得を推進するとともに、全店での北海道HACCP評価「A」の取得を目指して準備を進めています。



HACCP評価ポスター

Social [社会]

地域社会への取り組み

アークスグループは、お客様の豊かな暮らしに最も身近なお店としてさまざまな社会活動や文化活動を積極的に応援しながら、**地域社会とともに成長する企業を目指しています。**
また、地域のライフラインとしての役割を担うため災害支援体制づくりにも力を注いでいます。

● **「全国児童画コンクール」への協賛**

全国から56万点を超える応募をいただく「全国児童画コンクール」*に毎年協賛しています。コンクール後はアークスグループの店舗内で作品を展示し、地域のお客様とのふれあいの輪を広げています。



店舗内での作品展示のようす

*毎日新聞社主催、文部科学省後援、CGCグループ協賛

● **スポーツ振興イベントへの協力**

北海道・東北の各地でスポーツ振興イベントを開催し、地域住民や子どもたちの健康促進とともに交流の場づくりに貢献しています。株式会社福原では「こども野球の日」に後援しているほか、「フクハラ杯スプリングサッカーフェスティバル」「東北海道フクハラ杯ミニバレー大会」などを長年にわたり開催して

います。株式会社ベルジョイスは、2018年までの33年間「ベルジョイスカップ・S&B杯ちびっこ健康マラソン大会」を開催してきたほか、「ベルジョイスカップ春のママさんバレーボール大会」特別協賛など地域のスポーツ振興にお役に立てるよう活動を継続しています。



フクハラ杯スプリングサッカーフェスティバル



ベルジョイスカップ・S&B杯ちびっこ健康マラソン大会



東北海道フクハラ杯ミニバレー大会

● **各地域で食育イベントを開催**

地域のお客様の健やかな心と体を育むために、食育セミナー、料理教室、農場での収穫体験など地域の特色を生かしたイベントを企画・運営しています。株式会社ラルズがお取引先様と毎年札幌で共催する「親子で楽しく!わくわくケーキパーティー」は、1回に100組200名のお客様に親子で参加いただきました。株式会社福原では地域の企業様との共催で健康講座を開催したほか、地域の「子ども食堂」へ食材をご提供し支援しています。さらに株式会社東光ストアでも食育をテ-



親子で楽しく!わくわくケーキパーティー



マに多彩なセミナーを開催しています。株式会社道東アークスでは2019年2月に一人暮らしを始める高校生を対象とした「食の自立」料理教室を主催し、男女高校生が熱心に料理づくりにチャレンジしました。また、株式会社ユニバースでもお取引先様にご協力いただき、減塩に関する料理教室や勉強会を実施しました。今後も地域のお客様の健康や豊かな生活に資する活動を続けていきます。



高校生のための「食の自立」料理教室

● **ユニバース「愛のチャリティー募金」活動**

株式会社ユニバースでは、1984年から全拠点で「愛のチャリティー募金」活動を継続し、身体障がい者福祉施設や介護施設、支援活動をしている団体などへ希望される品物を寄贈しています。お客様の善意により35年間の寄付総額は7,988万円、寄贈施設はのべ762施設に及んでいます。

また自然災害の被災地域への救援金募金活動も実施しており、2018年には店舗での募金とユニバース義援金の総額で、同年7月の西日本豪雨では1,250万円を、同年9月の「台風21号災害・北海道胆振東部地震」では804万円を寄贈することができました。



福祉施設へ寄贈した際の記念撮影

● **災害に備える取り組みを促進**

アークスグループは、地域のライフラインとしての役割を担うため災害に備える体制づくりにも力を注いでいます。事業活動を行っている地域の自治体などとの災害時支援協定締結に積極的に取り組み、グループ全社ではのべ38の団体と、物資の提供や店舗駐車場の使用などについて協定を締結しているほか、株式会社ユニバースは、被災地の方々に必要不可欠な食料品や生活用品の供給のための「災害用備蓄倉庫」を設置するとともに、店舗駐車場を避難場所としてご提供しています。



「災害時における駐車場の使用に関する協定」締結式(株式会社ラルズ)



災害用備蓄倉庫(株式会社ユニバース)

Social [社会]

お客様サービス向上の取り組み

私たちは、快適に、便利にお買い物いただけるようサービスの向上に取り組むとともに、店内のバリアフリー化や「サービス介助士」配置店舗の拡充など人に優しい店舗づくり、お客様に喜んでいただける商品の提供に努めています。

- ラルス「お弁当・お惣菜大賞2019」で最優秀賞受賞

「お弁当・お惣菜大賞」とは、一般社団法人全国スーパーマーケット協会が、デリカ部門のレベルアップをめざしてスーパーマーケットやコンビニエンスストア、専門店などで実際に販売しているお弁当・お惣菜・サラダ・パンなどの中から特に優れた商品を選出し、表彰するプログラムです。2018年に全国からエントリーされた5万件以上の商品の中から株式会社ラルズの「甘納豆がぎゅっしりつまったお赤飯」が祭事・催事部門で最優秀賞を受賞し、同社の「旨辛!本格四川麻婆豆腐」が惣菜部門において入選しました。今後も、お客様に喜んでいただけるアークスグループならではの商品開発に取り組む予定です。



お弁当・お惣菜大賞2019表彰式



甘納豆がぎゅっしりつまったお赤飯



旨辛!本格四川麻婆豆腐

- 店舗内で活躍する専任クッキングアドバイザー

株式会社ラルズでは、店内に設置されているオープンキッチンで専任スタッフが料理を実演し、その日おすすめの食材を使ったオリジナル・メニューをご提案しています。栄養面でのアドバイスやお客様からの質問などにも親身に対応し、毎日の献立づくりにお役立ていただきながら、健康で豊かな食生活を応援しています。



オープンキッチンに設置しているクッキングアドバイザーおすすめメニュー

- お買い上げいただいた商品の宅配サービス

店舗にてお買い上げいただいた商品を、当日から翌日までにご自宅までお届けするサービスを拡充しています。重い荷物をご自身で持ち帰る必要がないので、小さなお子様をお連れのお客様や妊娠されているお客様、お体の不自由なお客様やご高齢のお客様に大変ご好評いただいております。アークスグループは、今後もすべてのお客様に便利で快適にお買い物いただけるサービスをご提供します。



店舗内サービスカウンターで宅配サービスを受付

- 「サービス介助士」などで人に優しい店づくり

株式会社ラルズでは店舗の入口にインターフォンを設置し、お体の不自由な方やご高齢のお客様、小さなお子様連れのお客様などお手伝いを必要とされる際にご利用いただくとともに、店内のバリアフリー化も進めています。さらに、株式会社東光ストアでは公益財団法人日本ケアフィット共有機構が認定する「サービス介助士」を全店に配置し、すべてのお客様に安心、快適にお買い物をお楽しみいただけるよう努めています。



店頭に設置されているインターフォン「ふれあいコール」



サービス介助士によるお買い物の補助

- 「フェアトレード商品」で身近な国際協力

株式会社東光ストアでは「フェアトレード商品」を取り扱っています。フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。フェアトレード認証ラベル付き商品を通して、お客様に国際協力を身近に感じていただくきっかけづくりを推進していきます。



販売しているフェアトレード商品の一部



国際フェアトレード認証ラベル

- 店舗にAEDを設置し普通救命講習会を実施

アークスグループではご来店のお客様・スタッフが万が一の際にも安全確実に救命処置ができるよう、店舗に「AED（自動体外式除細動器）」を設置しています。また、従業員は普通救命講習会を受講し、AEDの使い方と心肺蘇生法や止血法などの正しい知識と技術を身に付け、お客様に安心してお買い物いただける環境を整えています。



AED設置店ポスター



店内設置のAED

- お客様と産地をつなぐ「大地の直送便」コーナーを展開

株式会社ラルズは札幌市内や近郊で運営するスーパーアークス、ビッグハウスの店舗内に直売コーナー「大地の直送便」を設置し、近郊の契約農家で朝採れた野菜を販売しています。生産者の顔が見えるよう、生産者の名前や産地がわかるシールを商品に貼付しご紹介することでお客様と生産者、産地をつなぎながら、新鮮で安全・安心な商品をお届けしています。



朝採れた野菜が並ぶ「大地の直送便」

Governance [企業統治]

コーポレート・ガバナンス

経営の基本方針と中長期的な経営戦略を実現し、経営課題に対処するために、経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築し、上場企業として公正かつ透明性をもって経営を行う姿勢を貫き、コンプライアンス経営を徹底していくことが、コーポレート・ガバナンスの要諦と考えています。

● 企業統治体制の概要

アークスは、2002年11月1日に持株会社へ移行し、親会社としてグループ全体の中長期計画、グループ戦略を決定するとともに、ヒト・モノ・カネ・情報・技術などグループの経営資源の適切な配分と、子会社に対する管理・指導を業務として行っています。事業子会社は、アークスが策定した全体戦略に基づいて、すべての事業活動を推進し、各々の数値目標に対して執行責任を負うこととしています。

このため、アークスは、子会社の業務執行状況の監視を集約的にを行い、アークスグループ全体の企業統治体制の有効性を確保することを目的として、監査役制度を採用しており、取締役会と監査役会による業務執行監督および監視を行っています。

役員は2019年9月1日現在、取締役11名、監査役4名で構成されており、このうち取締役2名、監査役2名は社外からの選任です。また、当社は、職務の執行をより迅速に行い、かつその責任を明確にするため、執行役員制度を導入しています。

取締役会は、取締役のほか、監査役、執行役員および事業子会社の社長が出席し、月1回定期的に開催するほか、必要に応じて適宜開催しています。グループ経営に関する最高意思決定機関として、法令および定款に定められた事項のほか、経営方針や施策に係る事項について積極的な意見交換と迅速な意思決定を行っています。

またグループ内の重要事項に関する協議・検討を行うとともに、グループ各社間のコミュニケーションと情報の共有ならびに経営意思の統一と徹底を図る場として、取締役、監査役、執行役員および事業子会社の社長で構成されるグループ経営会議を毎月開催しています。

監査役会は、監査役4名、うち社外監査役2名で構成されており、取締役会およびグループ経営会議などの重要会議に出席するとともに、監査役会で定めた職務の分担に従い、業務・財産の状況などに関する調査および取締役の業務執行に関する監査を行っています。

● 経営の透明性を重視し ● 適時・適切に情報公開

アークスグループは、すべてのステークホルダーに対し、適時・適切に情報公開を行っています。

社外に対しては、IR(インベスター・リレーションズ)活動に関する部署を設置し、ウェブサイト有価証券報告書や決算短信などの財務情報を開示しているほか、株主・投資家・アナリスト・マスコミ関係者の方々に対する決算説明会を実施しています。

社内に対しては、全役員向けに定期的にグループ社内報を発行し、グループの決算情報・新人紹介および各社の最新情報などを共有しています。



アークスグループ社内報 2019年新年号
新年号には毎年グループ各社の社長による年頭挨拶や新成人の紹介のほか、新店・改装店の紹介やコンプライアンス関連の記事なども掲載(全20ページ)

● コンプライアンス・リスク管理委員会で ● 企業理念に基づきリスクを回避

アークスグループ全体のコンプライアンスおよびリスク管理を統括する組織として設置された「コンプライアンス・リスク管理委員会」は、社長自らが委員長となり、顧問弁護士も参加しグループ全体でリスク事象を把握し、再発防止策を含めたリスク回避策を講じています。中でも全役員に関連法規などやグループ理念・行動規範についての教育を行い、コーポレート・

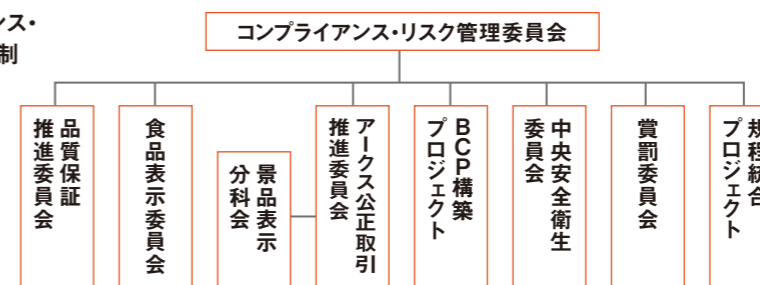
ガバナンスやコンプライアンスに関する基本事項を周知徹底しています。

また、全役員に企業理念や行動指針などを記した「アークスグループ・フィロソフィー」を配布し、従業員は常に携帯することで企業理念の浸透やビジョンの共有化を図っています。



アークスグループ・フィロソフィー

コンプライアンス・ リスク管理体制



● 公正な取引をスタンダードとするため ● 通報窓口を設置

アークスグループでは、「損得より善悪」の理念に基づき、コンプライアンス・リスク管理委員会の下部会議体として「アークス公正取引推進委員会」を設けています。これは、公正な取引を継続するための関連法の遵守と、業界をリードするスタンダードの確立に向けた取り組みです。

その一つとして、社内での不正・問題などを発見した従業員が躊躇なく通報できるよう、内部通報窓口を設置しています。また、グループ各社の従業員が法令など倫理に反する行為を行った場合に通報いただけるよう、お取引先様専用の外部通報窓口も設置しています。



内部通報窓口ポスター



お取引先様専用ヘルプラインポスター

● 品質保証推進委員会を通じて ● 品質管理レベルの向上

アークスグループでは、品質保証および品質管理のより一層の向上を目指し、コンプライアンス・リスク管理委員会の下部会議体として「品質保証推進委員会」を設けています。

この委員会には事業会社8社が参加し、実務的な活動を行うため、下部分科会として「衛生管理分科会」「デリカ分科会」「センター分科会」を設けています。これらの活動を通じて、アークスグループの品質管理レベルを向上させ、お客様へ安全・安心な商品をご提供していきます。

● 食品スーパーマーケットの関係法令や ● コンプライアンスを学ぶ研修を実施

アークスグループでは、コンプライアンス最優先の業務運営を行うため、法務コンプライアンスグループによる「コンプライアンス研修」を開催しています。

食品スーパーマーケットで働く従業員として必要な関係法令の解説やグループ内で発生した事案を紹介するとともに、近年特に注目されるハラスメントの防止に向けた取り組みを強化しています。



ミヤンマーからの技能実習生を対象にしたコンプライアンス研修(株式会社道東アークス)

人材教育

アークスグループが最も重視する経営資源は“人材”です。意欲とスキルがあれば努力がきちんと報われる仕組みとして、透明性の高い人事制度を導入しています。



● 「人材」を「人財」に育てるための ● 研修プログラム

アークスグループでは、新入社員から役員に至るまで「人財」を育成するための研修プログラムの充実を図り、個人の能力や適性を最大限に生かした人材教育に注力しています。体系的な研修カリキュラムを採り入れ、社員一人一人が自分の役割を認識し、高い目標を持てるようバックアップ体制を充実させています。

2018年度は、全11タイトル、のべ80日間のアークス主催研修を実施し、772人の従業員が参加しました。

● 透明性の高い ● キャリアアップ制度

アークスグループは熱意とスキルがあれば、誰もがキャリアアップできる透明性の高い人事制度を導入しています。一人一人が高い目標を持ち自己実現を果たすためにキャリアアップの仕組みを作り上げています。

● チャレンジする人を育て ● 支える自己啓発支援制度

教育体系の中に自己啓発支援制度を設け、資格取得や通信教育に対する受講料の補助を行っています。通信教育講座は、業務に関わるものはもちろん、生活習慣の改善や英会話など100種類の中から選択できます。また、業務や昇格に必要な資格(24種類)に合格した場合には、受験料を補助しています。

2018年度国外流通視察研修参加者より

自社ブランドに誇りを持って働く 従業員の笑顔が印象的でした。



トレーダー・ジョーズ前にて参加者の記念撮影

事業会社9社24人が参加した5泊7日間の国外流通視察研修では、米国ロサンゼルス・ラスベガス地区を視察しました。私が研修テーマとして設定したのは「チェックアウトとカスタマーサービス」でした。

実際に視察して接客が良いと感じたのは、断然にトレーダー・ジョーズでした。ここでは、副店長から「トレーダー・ジョーズのバリュー(社員の心得)」として、①インテグリティ(正直で真面目にやっていくこと)、②ワオ体験を作ろう(何かすばらしい、びっくりするような体験を与えよういつも考えていること)、③商品が一番大事、④店自体がブランド、⑤官僚主義を撤廃、の5点について話を聞くことができました。印象に残っているのは、自社ブランドに対して従業員が皆、誇りと自信を持ち、充実して仕事をしていることでした。

自分はどんな“ワオ体験”ができるのだろうかという楽しみに入店すると、ある女性従業員は、品出しをしながらも顔を上げ、お客様一人一人にアイコンタクトをし、笑顔で明るく声をかけていました。常にお客様の存在を意識して行動していることが伝わってきました。

私も「教えるだけのチェックトレーナー」にならないよう、教える相手とよくコミュニケーションを取り、店舗の皆さんのモチベーションを上げてより良いパフォーマンスを引き出せるように、研修で得た経験を自身の仕事に生かしていきたいと思っています。

株式会社ラルズ
販売統括部第1運営部 チェックトレーナー 鍋島 夕紀子

求める人材像

アークスグループは、一人ひとりがプロフェッショナルとして自立し、新たな価値を築ける人材を求めています。

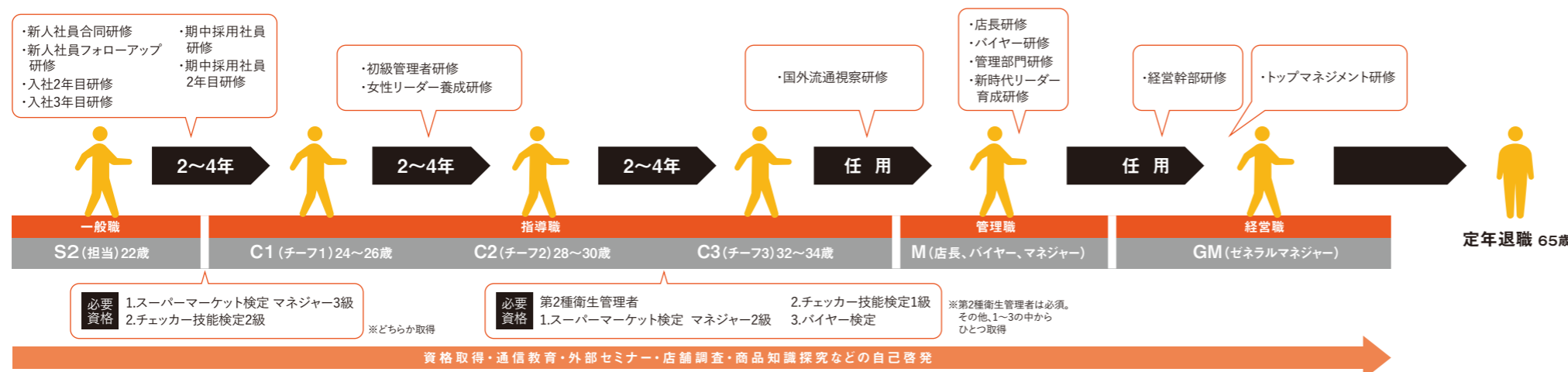
- 1 常に、お客様のことを考え、お客様に満足していただくために行動することができる人
- 2 常に、法令及び社会的規範を遵守し、高い倫理観を持って活動することができる人
- 3 常に、安全・安心な商品サービスを提供し、地域社会に貢献することができる人
- 4 常に、株主・お取引先・社員・家族を尊重し、誠実に対応することができる人
- 5 常に、自ら考え行動し、働く喜びを感じながら、大きな夢の実現に向けて努力することができる人

人材教育理念

夢の実現に向かって自ら考え挑戦できる人材を育成するために「人材教育理念」を掲げています。

- 1 人間力の向上
人の心の理解力と倫理的思考力を兼ね備えた「豊かな人間性」と互いに学び合う「共育の精神」を持つ人材の育成を行う。
- 2 常識力の向上
ビジネス常識、一般常識、業界常識の理解と習得を行う。
- 3 基礎的技術の向上
業務を遂行するために必要な技術・技能の育成を行う。
- 4 変化対応力の向上
既存の枠組みにとらわれず、「多面的・俯瞰的な見方」「柔軟な発想」により、変化に対応できる人材の育成を行う。
- 5 自律(立)力の向上
自ら考え、判断・行動し、結果に責任を持つ人材の育成を行う。

アークスグループの教育体系とキャリアアップの仕組み



Governance [企業統治]

ダイバーシティ推進の取り組み

アークスグループでは、多様な価値観を認め合う企業風土を醸成しながら、従業員一人一人が持てる力を最大限に発揮できる環境づくりを目指し、グループ横断的なダイバーシティ推進に取り組んでいます。

- 北海道大学COIと協働するなど
- 女性活躍の環境づくりを幅広い視点で推進

COI(Center of Innovation Program)とは、文部科学省と科学技術振興機構が実施する、10年後のあるべき社会の姿を出発点に研究開発課題を設定し、大学や民間企業が一体となって取り組む「革新的イノベーション創出プログラム」のことです。北海道大学COIでは、笑顔溢れる社会を目標として30社を超える企業・機関とともに『食と健康の達人』拠点を創出しました。株式会社アークスも2018年より、特に女性の幸せな働き方と企業の役割について情報交換の場を得るため、この

産学官連携の取り組みに協働しています。2019年1月に開催された「暮らしと仕事」がテーマのシンポジウムでは、異業種企業に勤務する女性たちとともに、女性の働き方・生き方の多様化、柔軟性などについて議論しました。このような活動を通じて得た知識や事例、他民間企業・行政との幅広いつながりをアークスグループにおけるダイバーシティ推進に生かすなど、女性が主体的に行動し、能力を発揮できる環境づくりを積極的に進めています。



北海道大学COIシンポジウム「暮らしと仕事」のトークセッション



- ダイバーシティ推進プロジェクト
- 本格始動へ向けて

ダイバーシティを重要な経営課題のひとつとして捉え、2019年8月にダイバーシティ推進プロジェクトを発足しました。アークスグループの持続的な成長のため、多様な人材の多様な意見を経営に生かし、魅力ある職場を作る活動を行うことを目的としています。今後、具体的な行動計画を策定し、各事業会社とも連携してグループ全体でダイバーシティ推進に努めていきます。



ミーティング風景



先輩たちの励ましが心の支えに。
やるからには、しっかり実績を作りたい。

株式会社ラルズ ラルズマート伏古店店長 若松 あやこ

入社2年目まではチェッカー、16年目まではチェッカーチーフとして経験を積み、副店長と研修を経て、入社18年目に店長として伏古店に着任しました。

店長として最初の壁は、店舗を運営するための知識不足を痛感したこと。私が経験してきたチェッカー部門は非売上部門で、時間帯の売上や客数などはわかりませんが、それ以外の部門の売上、構成比、在庫などは把握していませんでした。売場づくりや週間オペレーションとは何かなど、スーパーマーケットで長く働いていながら知らないことばかりでした。

暗中模索する中で、いつも気にかけてくれたのが会社の先輩店長たちでした。「最近どう?」「大丈夫、1年たてばわかるよ」と声をかけてもらい、どれだけ励まされ



たかわかりません。さりげなく見守り、見えない団結力で支えてくれる社内風土をありがたいと思いました。

店長2年目の現在は、「やるからには目標を持ってしっかりと実績を作りたい」という心構えです。チェッカー部門にも販売の喜びを実感してほしいと、売れ筋商品の企画やキャンペーン時のレジでの声かけ運動などに取り組み、着実に成果が表れています。日々のコミュニケーションを大切に、すべての従業員が笑顔で働ける店づくりを進めていきます。

- 外国人技能実習生の受け入れ体制を整え
- 細やかにサポート

アークスグループでは、外国からの技能実習生受け入れに力を入れています。2016年春にミャンマーからの第1期生を迎え、2019年2月末にはグループ全体で155人が在籍しています。実習生には帰国後、実習経験を生かして母国の食品製造分野の近代化や発展の担い手として活躍し、日本との懸け橋になってほしいとの思いから、受け入れ体制を整え、生活面も含めたきめ細やかなサポートを実施しています。



ミャンマーからの技能実習生歓迎会(株式会社ラルズ)

- ラルズ
- 「企業主導型保育園」と提携

株式会社ラルズでは、従業員が仕事と育児を両立しやすい職場づくりの一環として、2018年夏に「企業主導型保育園」と提携しました。優先入園をはじめ病気で登園させられない場合の病児保育にも対応し、育休後の仕事復帰を支援しています。今後も、子育てしながら長く、安心して働ける環境・制度を整備し、アークスグループ全体として女性活躍推進に取り組んでいきます。



子どもたちの笑顔が溢れる提携先保育園

Environment [環境]

環境への取り組み

地域社会を担う企業グループとして、自然と共生し、地球の豊かな恵みを次世代へ引き継ぐことを目指し、環境に配慮した事業活動を積極的に進めています。

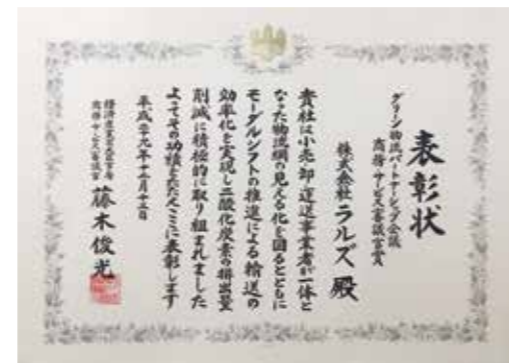
- **ラルズ**
- **モーダルシフトを推進し、経済産業省より表彰**

アークスグループでは、小売・卸・運送業者が一体となった物流網の「見える化」を図り、物流コスト減、CO₂排出減を目的として輸送手段のトラックから鉄道へのモーダルシフトを推進しています。株式会社ラルズが株式会社シジシージャパン様、日本貨物鉄道株式会社様、全国通運株式会社様と共同で取り組んだ道外青果物の鉄道輸送により、年間の物流コストを

25%、CO₂排出量を60%削減しました。小売側が輸送手段を決定することにより業界の商習慣が改善されたことも評価され、2017年「グリーン物流優良事業者表彰」において「経済産業省商務・サービス審議官賞」を受賞しました。今後も、環境負荷の低減に努め、さらなる改善を重ねていきます。



「グリーン物流優良事業者表彰」表彰式



経済産業省より受領した表彰状

- **ユニバース「循環型社会形成推進功労者」**
- **として環境大臣より表彰**

株式会社ユニバースは、2001年にISO14001の国際認証を本部で取得し、省エネ・省資源や廃棄物削減活動を推進しています。その中の「3R」に関する取り組みが青森県に評価され、2017年に「循環型社会形成推進功労者」として表彰され、2018年には県の推薦で「3R活動優良企業」として環境大臣表彰を受けました。今後も環境にやさしい企業を目指して事業活動を継続していきます。



環境大臣より受領した表彰状



青森県と連携してレジ袋有料化の収益金を「古紙などの回収拠点」設置団体に寄付



- **「北海道CGCみどりところの基金」を通じ、環境保全活動を応援**

北海道内アークスグループのレジ袋販売金額をすべて「北海道CGCみどりところの基金」に寄付し、北海道の環境保全事業や環境教育、環境研究機関などの助成に役立てるとともに、北海道の高校生へ奨学金を給付しています。札幌ドーム5個分の広さを誇る「北海道CGCの森」がこの基金から生まれ、豊かな自然環境を育んでいます。



レジ袋 小2円、大3円で販売



「北海道CGCみどりところの基金」高校生への奨学金給付を伝えるポスターポスター



- **お客様とともに「3R運動」を推進**

アークスグループでは、レジ袋削減、ゴミ減量化を図るとともに資源循環型社会の実現を目指して、「3R運動*」を展開しています。生鮮部門の作業場から出る生ゴミを分別収集して堆肥化するほか食品トレイや紙パック、廃油、古紙、発泡スチロールの回収とリサイクルなど、お客様にもご協力いただきながら資源の再利用を進めています。

*「3R運動」とは、Reduce(削減)、Reuse(再利用)、Recycle(再生利用)の頭文字をとった環境運動のことです。



リサイクル品回収ボックス



古紙・資源物の専用回収コーナー

- **店舗施設の省エネ化**

店舗から排出されるCO₂削減と電力消費量削減を目指し、省エネ効果の高いLED照明や外気の影響を受けにくい電力消費量が少ないリーチインケースの導入を推進し、環境に配慮しながらも、お客様がお買い物しやすい店舗づくりを進めています。



LED照明が導入された売場



冷凍リーチインケース

事業会社紹介

地域に根ざしたライフラインとして、
お客様に愛される「地域ナンバーワンの店舗」を
展開しています。

アークスグループは、北海道・東北に拠点を置くスーパーマーケット8社(※)と
その他の事業会社1社による食品流通グループです。
北海道・青森県・岩手県でそれぞれNo.1の市場シェアを獲得し、
そのスケールメリットを生かし各地でエリアドミナントを築くアークスグループは、
暮らしに密着した商品とサービスを地域の皆様にお届けしています。
今後、さらなる事業拡大を目指すとともに、
地域のライフラインを守る旗手として
“地域ナンバーワンの店づくり”を展開します。

※2019年9月1日より、宮城県に9店舗を展開する
株式会社伊藤チェーンがグループ入りして、スーパーマーケット9社となりました。

道央エリア 株式会社ラルズ 株式会社東光ストア 株式会社エルディ	十勝・釧路・根室エリア 株式会社福原
道北エリア 株式会社道北アークス	道南エリア 株式会社道南ラルズ
道東エリア 株式会社道東アークス	青森県 岩手県 秋田県 株式会社ユニバース
青森県 岩手県 宮城県 株式会社ベルジョイス	宮城県 株式会社伊藤チェーン (2019年9月1日より)

各事業会社の資本金、従業員数は2019年2月期末。
従業員数は8時間換算した12カ月平均のパートナー社員数を含む。
売上高は2019年2月期。



株式会社ラルズ

〒064-8621 北海道札幌市中央区南13条西11丁目2番32号
TEL.011-530-6000(代表) FAX.011-530-6010



会社概要

代表取締役社長/猫宮 一久
 設立年月日/2002年11月1日
 資本金/42億円
 事業内容/総合小売店チェーン
 従業員数/4,468人
 店舗数/73店
 売上高/1,286億35万円



地域になくてはならない店舗運営を目指し、
従業員の育成・働く環境づくりにも力を注いでいます。

地域のライフラインとしてお客様が必要としている商品を、
お客様の期待をはるかに超えた価格と品質、そしてサービスで確
実にご提供し続けることを使命に、札幌市とその近郊、後志、胆
振地区の道央エリアを中心に展開しています。道内産商品の地
産地消にこだわると同時に海外調達も活用した充実の品揃え
で地域になくてはならない店舗運営を目指しています。お客様
に愛される店舗であるために、従業員の育成や働きやすい環
境づくりにも力を注ぎ、次々と女性店長も誕生しています。



ローコスト運営に徹し
「適価」でご提供

生鮮食品は「味」「鮮度」
「価格」のバランスを重視す
るとともに、おいしさを追求し
た「さかなの寿司」など人
気商品を製造・販売。一般食
品ではスーパープライスを強
化してお客様に喜んでいただ
ける「適価」でのご提供に
徹し、ローコスト運営に努め
ています。

SHOP 店舗ブランドのご案内



スーパーアークス

当社グループ名を冠した店
舗。豊富な品揃えできめ細やか
なサービスをご提供。



ビッグハウス

広域型のスーパーマーケット。
まとめ買いによる価格訴求を重
視したディスカウント店。



ラルズマート

郊外型大型店のノウハウを基
にした中規模店舗。高頻度の来
店と時間帯別ニーズに対応。

- ・ラルズプラザ
- ・ラルズストア
- ・ホームストア
- ・フレッティ
- ・スーパーチェーンシガ



株式会社 ユニバース

〒039-1185 青森県八戸市大字長苗代字前田83番地1
TEL.0178-21-1888(代表) FAX.0178-21-1811



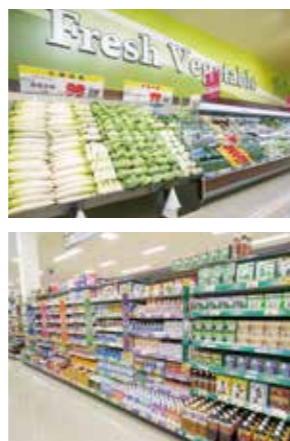
会社概要

代表取締役社長/三浦 紘一
設立年月日/1967年10月20日
資本金/15億2,290万円
事業内容/食品スーパーマーケット
従業員数/4,380人
店舗数/57店
売上高/1,246億8,993万円



“Customers,our Priority”を基準に、地域のより多くの皆様に最も必要とされる店舗づくりを目指します。

私たちは何かを決める時や新たな行動を起こす時に、繰り返して来店して下さるお客様「Customers(顧客)」を最優先に考える“Customers,our Priority(私たちはいつでもどこでも顧客最優先)”の考え方を基準にしています。今後もこの姿勢を貫き、食の安全・安心を大前提に、より良い鮮度、品揃え、価格、サービスを追求し、より多くのお客様に最も必要とされる店舗をつくることで地域に貢献できる企業であり続けることを目指しています。



健康サポートや社会貢献活動を推進

お客様の「健康寿命延伸」を支援するため、メーカー様と共同で減塩の商品開発や勉強会、料理教室などを開催しています。また、「3R」をはじめとする環境活動や35年間継続する「愛のチャリティー募金」、自然災害の救援募金などの社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

SHOP 店舗ブランドのご案内



ユニバース

青森県と岩手県を中心に展開する主力業態の食品スーパーマーケット。鮮度の良さと豊富な品揃えを徹底追求。



ビッグハウス

青森県八戸市に出店する食品主体のディスカウントストア。まとめ買いによる価格訴求を重視した店舗。



パワーズU

青森県十和田市に出店する食品主体のディスカウントストア。生鮮食品を中心に酒類なども豊富。

- ・Uマート
- ・ファル



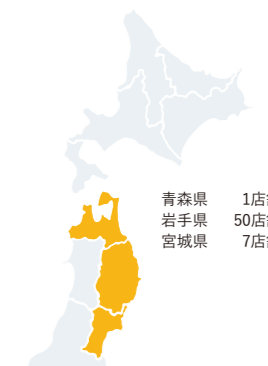
株式会社 ベルジョイス

〒020-0824 岩手県盛岡市東安庭2丁目1番30号
TEL.019-623-6100(代表) FAX.019-622-0470



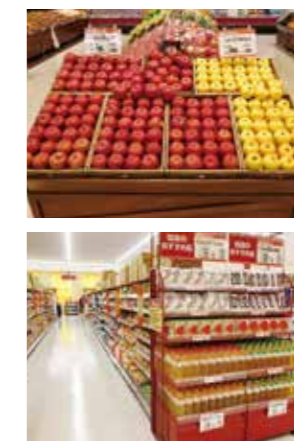
会社概要

代表取締役社長/澤田 司
設立年月日/1951年1月17日
資本金/10億5,227万円
事業内容/食品スーパーマーケット
従業員数/3,247人
店舗数/58店
売上高/794億8,202万円



基本理念のもと地域のお客様にとって「なくてはならないお店」を目指し、取り組んでいます。

1951年設立の株式会社ジョイスと2007年誕生の株式会社ベルプラスが「岩手県ナンバーワンシェア」を旗印に2016年に合併し、岩手県を中心に青森県、宮城県で店舗を展開しています。基本理念のもと頼れる企業・頼れる店・頼れる従業員として、地域のお客様にとって「なくてはならないお店」を目指しています。日常生活に欠かせない商品を「安全・安心」「新鮮」な状態で「安く」ご提供できるよう、ローコストオペレーションなどによる競争に強い店づくりに取り組んでいます。



地域に密着し各種競技大会を応援

「ベルジョイスカップ・S&B杯ちびっこ健康マラソン大会」の運営や「ベルジョイスカップ春のママさんバレーボール大会」への協賛など地域の皆様の健康づくり、スポーツ振興を長くお手伝いすることで、地域に密着し、愛される店づくりに努めています。

SHOP 店舗ブランドのご案内



ビッグハウス

フレッシュ&ディスカウント、フレンドリーをコンセプトに気持ちの良い接客をご提供。



ジョイス

「誠実と親愛」の接客を基本に買いやすい・選びやすい売り場づくりに努めている。



ベルプラス

「おいしく、安く、食べて、健康づくりのお手伝い」をモットーに地域に根ざした運営。

- ・ロッキー
- ・スーパーロッキー
- ・ビッグプロ



株式会社 福原

〒080-2498 北海道帯広市西22条北1丁目13番地
TEL.0155-37-3983(代表) FAX.0155-37-5752



会社概要

代表取締役社長／福原 郁治
設立年月日／1958年5月23日
資本金／24億8,183万円
事業内容／食品スーパーマーケット
従業員数／1,514人
店舗数／42店
売上高／427億1,760万円



地域に深く根ざしたライフラインとして お客様の豊かな食生活をご提案しています。

日本を代表する食料基地である十勝・釧路・根室エリアを基盤に店舗を展開し、創業以来「大きな会社よりもいい会社、いい会社を大きくしよう」とお客様と従業員の満足度を高めながら収益性の向上、財務体質の強化に努めています。「良品・廉価・誠実」をモットーに、まごころこめたフレンドリーサービスを追求しています。地域の特性を見極め、地域に深く根ざしたライフラインとして多彩な品揃えで豊かな食生活をご提案する地域の食生活を支え続ける会社でありたいと願っています。



地域貢献推進室を設置し 積極的に地元の活動を応援

当社では地域貢献推進室を設置し、食育や環境保全、スポーツイベントなど地域の社会活動を積極的に応援しています。2018年冬には帯広南商業高校クッキング部とコラボ弁当を開発。今後も同校や他校と継続的に企画していきます。

SHOP 店舗ブランドのご案内



スーパーアークス

当社グループ名を冠した店舗。豊富な品揃えできめ細やかなサービスをご提供。



フクハラ

地域密着型の食品スーパーマーケット。各町村の地域一番店として高い支持を得ている。



びあぎフクハラ

食品中心の郊外型スーパーマーケット。店内加工による出来たて商品など多彩な品揃え。



ビッグハウス

広域型のスーパーマーケット。まとめ買いによる価格訴求を重視したディスカウント店。

SHOP 店舗ブランドのご案内



ウェスタン

旭川市に展開する広域型パワーセンター。圧倒的な品揃えで活気ある空間を演出。



スーパーチェーンふじ

旭川市と近郊に展開する地域密着型スーパーマーケット。デリカコーナーを全店設置。



ベストプライス

旭川市内に展開する食品専門のディスカウント型スーパーマーケット。

- ・スーパーアークス
- ・ラルズマート
- ・ビッグハウス
- ・ダ*マルシェ



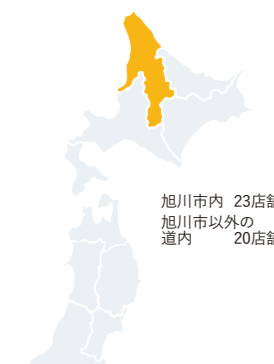
株式会社 道北アークス

〒079-8585 北海道旭川市流通団地1条1丁目33番地の1
TEL.0166-47-2818(代表) FAX.0166-48-8987



会社概要

代表取締役社長／六車 亮
設立年月日／1965年5月22日
資本金／7億8,117万円
事業内容／食品スーパーマーケット
従業員数／1,836人
店舗数／43店
売上高／433億2,228万円



お客様第一主義をモットーに 道北のリーディングカンパニーを目指しています。

1965年設立の株式会社ふじと1997年誕生の株式会社道北ラルズが合併し、旭川市を中心とした道北地区ナンバーワンシェアのスーパーマーケットチェーンを展開しています。ふじの創業以来「お客様第一主義」をモットーに、品揃え、鮮度、価格、利便性などすべてにおいて満足度を高め、楽しくお買い物ができる店舗づくりに努めています。「エブリデイロープライス」を基本としながらもこだわりの商品の提案、きめ細やかなサービスで道北地区のリーディングカンパニーを目指しています。



商圏特性に合わせた業態で お客様の支持を獲得

価格競争が激しい道北地区において、商圏特性に合わせた業態を開発しました。地域のインフラ便利店を確立し、生産性を高めた店づくりを進めています。また、60歳以上のお客様を対象とした「スマイルシニアデー」などの独自サービスでお客様の支持を獲得しています。



株式会社 東光ストア

〒062-0931 北海道札幌市豊平区平岸1条1丁目9番6号
TEL.011-842-3246(代表) FAX.011-842-3240



会社概要

代表取締役社長／楠美 秀一
設立年月日／1972年7月15日
資本金／13億7,785万円
事業内容／食品スーパーマーケット
従業員数／1,611人
店舗数／28店
売上高／449億3,086万円



多様化するお客様ニーズに対応し、 価値ある商品・サービスをご提供しています。

札幌市内と隣接する北広島市に、地下鉄駅隣接型店舗、郊外型店舗、24時間営業店舗など地域に根ざした食品スーパーマーケットを展開しています。1972年の創業以来「お客様に愛される会社」を行動指針として掲げ、価値ある商品・サービスのご提供に努めています。「いいもの東光!いいもの安く!」をスローガンに、多様化するお客様ニーズに対応し、毎日の暮らしに必要な商品だけではなく、上質化もコンセプトの1つとして生鮮品などこだわりの逸品も多彩に取り揃え、豊かな食生活を支えています。



単身世帯、高齢者に 優しい店舗づくり

単身世帯や高齢者に優しい店舗づくりを進め、食べ切りサイズ・少量パックなどの充実、惣菜部門の拡充に努めています。また、全店にサービス介助士を配置しお手伝いを必要とする方をサポートする体制を整えています。健康や食育に関する地域セミナーも頻繁に開催し、ご好評いただいています。

SHOP 店舗ブランドのご案内



東光ストア

札幌圏で地域特性に合わせた店舗業態・営業時間・こだわりの品揃え・サービスを展開。



ディナーベル

札幌市内で展開する、24時間営業の店舗を含む小型店舗。「お客様の冷蔵庫代わり」としての役割を担う。



株式会社 道南ラルズ

〒049-0101 北海道北斗市追分3丁目4番11号
TEL.0138-48-2220(代表) FAX.0138-48-2226



会社概要

代表取締役社長／土手 光三
設立年月日／1998年9月30日
資本金／4億8,000万円
事業内容／食品スーパーマーケット
従業員数／1,021人
店舗数／17店
売上高／243億1,730万円



地域一番の鮮度と価格、サービスで お客様の豊かな暮らしに貢献しています。

本州と北海道を結ぶ新幹線の玄関口・道南地区で地域一番の鮮度と価格、サービスをご提供しています。観光の街・函館市を中心にお客様のニーズを的確にとらえ、地域のライフラインとして各市町村になくてはならない店舗づくりを進めています。週末恒例の「朝市」は、生鮮品をはじめ一般食品を豊富に取り揃え、早朝から行列ができるほどの人気です。地域特性を活かした販売スタイル、簡単に調理できる商品などライフスタイルに対応した品揃えでお客様の豊かな暮らしに貢献しています。



時代のニーズに応える デリカセンター稼働

2018年5月に本部事務所を北斗市追分に移転。同年10月にはデリカセンターを稼働し、デリカ需要の伸びに対応するとともに今後も製造アイテムを増やしていき、店舗の生産性・競争力の向上に努めていきます。

SHOP 店舗ブランドのご案内



スーパーアークス

当社グループ名を冠した店舗。豊富な品揃えできめ細やかなサービスをご提供。



ラルズマート

地域特性やライフスタイルに対応する品揃え、きめ細やかなサービスをご提供。



ビッグハウス

広域型のスーパーマーケット。まとめ買いによる価格訴求を重視したディスカウント店。



株式会社 道東アークス

〒090-0056 北海道北見市御町3丁目3番地3
TEL.0157-36-5121(代表) FAX.0157-36-5125



会社概要

代表取締役社長／篠原 肇
設立年月日／1959年12月25日
資本金／4億5,000万円
事業内容／食品スーパーマーケット
従業員数／738人
店舗数／14店
売上高／201億5,519万円



北見市内 9店舗
北見市以外の道内 5店舗

「トリプル3計画」を策定し、お客様に感動をお届けする店舗づくりを進めています。

株式会社篠原商店と株式会社道東ラルズが合併し、北見・網走エリアでスーパーチェーンを展開しています。鮮度、おいしさ、お手頃価格でお客様に感動をお届けする店舗運営を目指しています。暮らしを支える商品を多彩に取り揃えとともに、お客様との距離を近づけるまごころのサービスできめ細やかに対応しています。また、売上目標3割アップ、経常利益3%、達成期日令和3年度までの「トリプル3計画」を策定し、地域の食生活に貢献するため従業員一丸で取り組んでいます。



地産地消にこだわり名産品コーナーを設置

道東エリアで収穫・生産された商品の地産地消にこだわり、地元の名産品コーナーを設置したり、近海で獲れた新鮮な水産物をお手頃価格でご提供しています。地元産ぶどう100%のワイン販売や高校生のための料理教室など地域に根ざした活動にも力を注いでいます。

SHOP 店舗ブランドのご案内



スーパーアークス

当社グループ名を冠した店舗。豊富な品揃えできめ細やかなサービスをご提供。



ビッグハウス

広域型のスーパーマーケット。まとめ買いによる価格訴求を重視したディスカウント店。



ラルズマート

郊外型大型店のノウハウを基にした中規模店舗。時間帯別ニーズに対応。

- ・フクハラ
- ・ベーシック
- ・ファースト



株式会社 エルディ

〒062-0931 北海道札幌市豊平区平岸1条1丁目9番6号
TEL.011-812-8088(代表) FAX.011-812-8885



会社概要

代表取締役社長／横山 清
設立年月日／1996年5月17日
資本金／4億8,000万円
事業内容／ビルメンテナンス事業・
保険事業・資源環境事業・
ホームセンター事業・旅行事業
従業員数／204人
店舗数／5店
売上高／68億3,010万円



カインズ 3店舗
アークストラベル 2店舗
盛岡営業所

地域のライフラインサポート企業として快適な環境づくり、豊かな生活提案に努めています。

清掃・警備・設備管理などのビルメンテナンス事業をはじめ損害保険・生命保険をご提案する保険事業、産業廃棄物収集運搬等の資源環境事業など主にアークスグループ各事業会社の環境維持・運営業務を担っています。また、フランチャイズ契約によりホームセンター「カインズ」、旅行業を手がける「アークストラベル」を展開し、地域のライフラインサポート企業として安全で快適な環境づくり、お客様の豊かな生活づくりに幅広く貢献しています。



次世代型ホームセンター「カインズ」

「カインズ」はモノを買うだけでなく体験や時間の楽しさを追求する次世代型ホームセンターを目指しています。日用雑貨や家庭用品をはじめリフォームセンターや園芸館などの専門コーナーを設けて、多彩なライフスタイルをご提案しています。

SHOP 店舗ブランドのご案内



カインズ

札幌市、北広島市、石狩市で3店舗を運営。多彩なオリジナル商品をご提供。



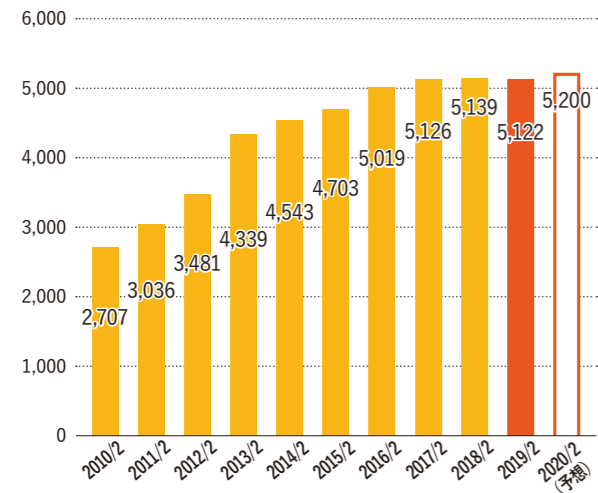
アークストラベル

札幌本店と帯広支店を運営。地元の魅力を体感するオリジナル商品も多数ご提案。

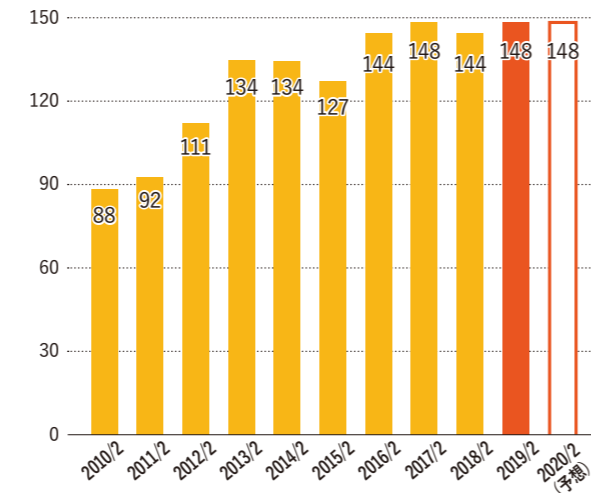
財務ハイライト・重要指標

財務データ(連結)

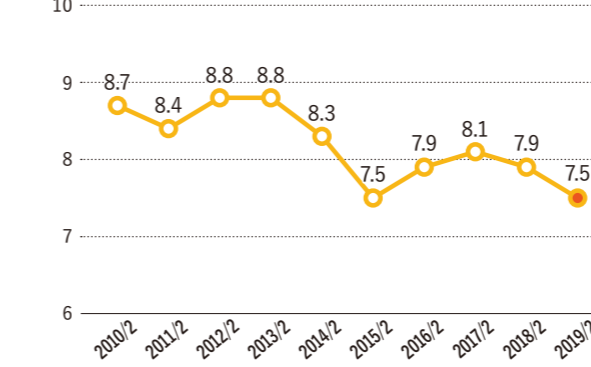
売上高 (単位:億円)



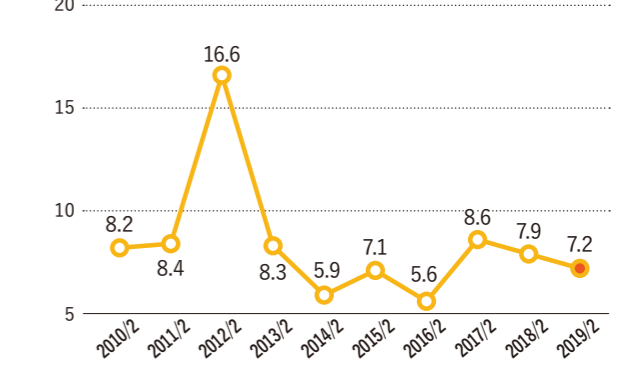
営業利益 (単位:億円)



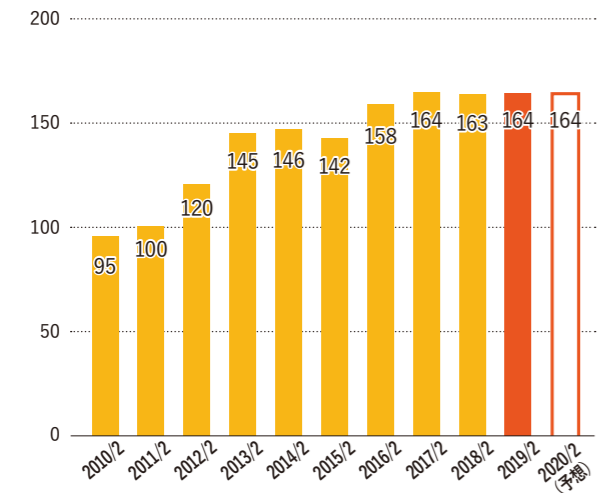
ROA (総資産経常利益率) (単位:%)



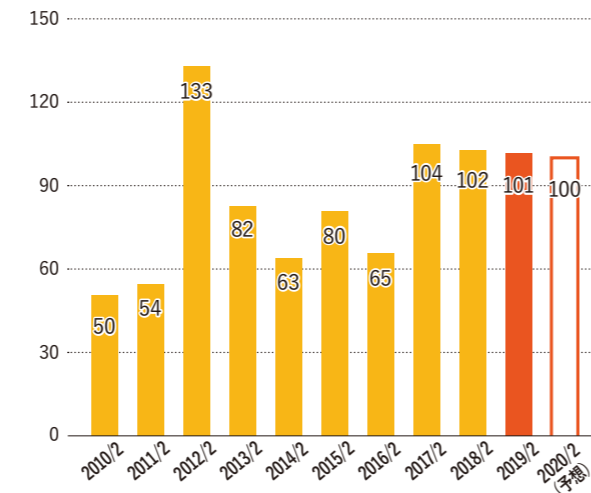
ROE (自己資本当期純利益率) (単位:%)



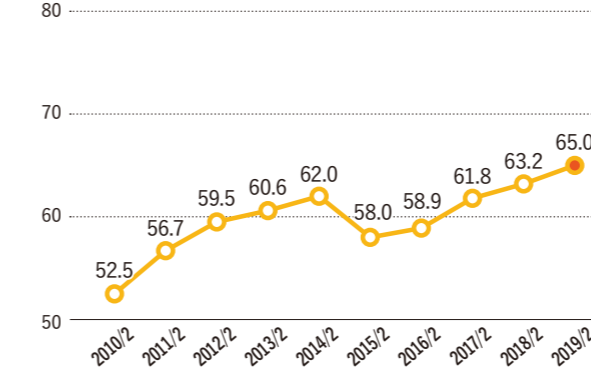
経常利益 (単位:億円)



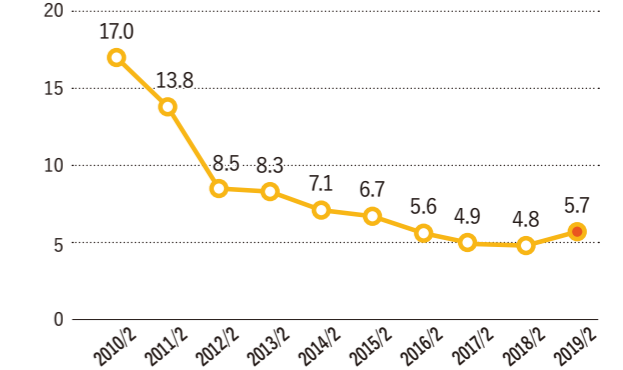
当期純利益 (単位:億円)



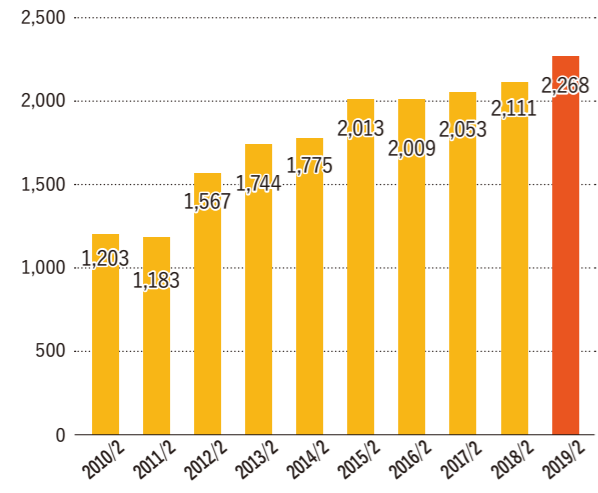
自己資本比率 (単位:%)



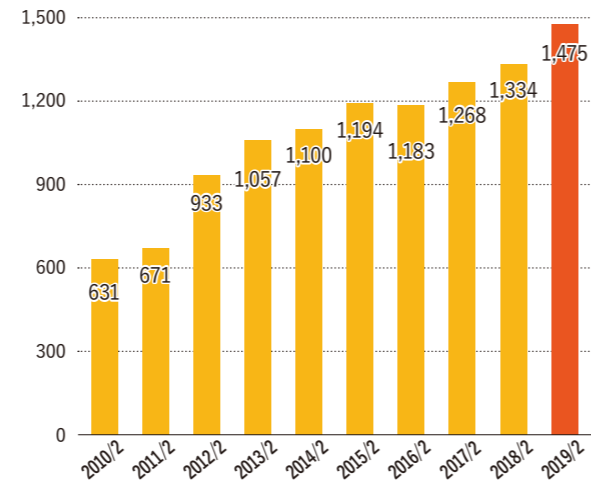
総資産有利子負債率 (単位:%)



総資産 (単位:億円)

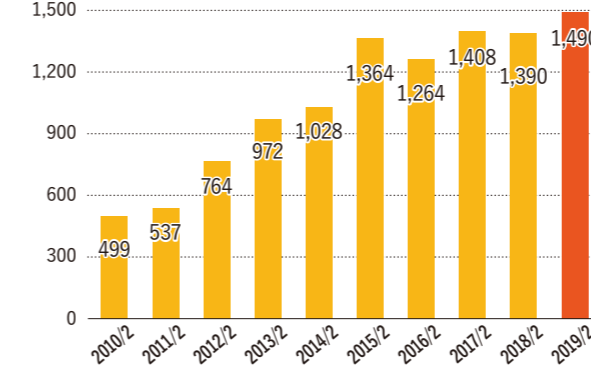


純資産 (単位:億円)

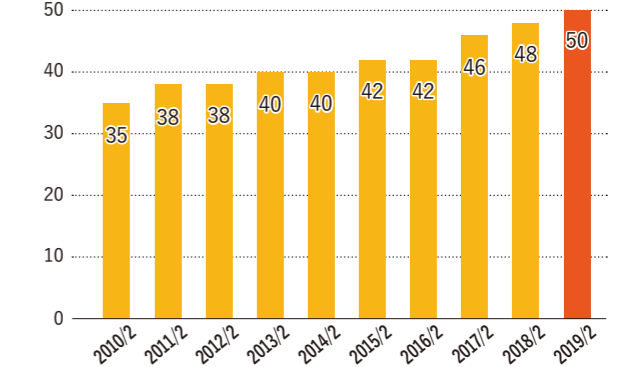


株式関連データ(連結)

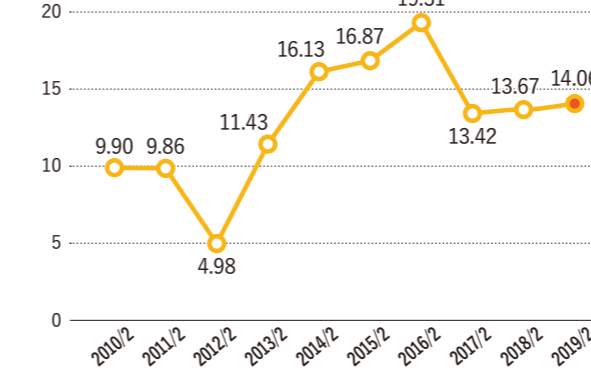
時価総額 (単位:億円)



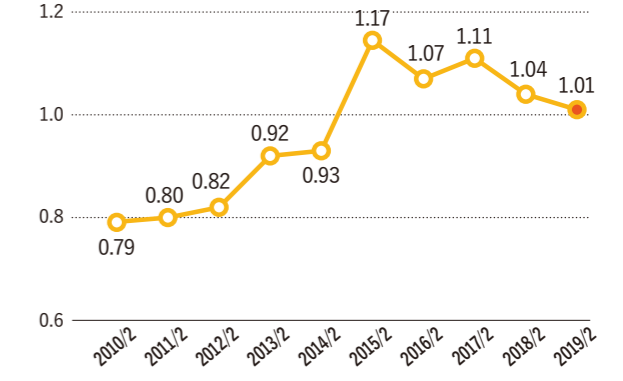
1株当たり配当金 (単位:円)



PER (株価収益率) (単位:倍)



PBR (株価純資産倍率) (単位:倍)



会社情報

会社概要

会社名	株式会社アークス
英 訳 名	ARCS COMPANY, LIMITED
本 社 所 在 地	〒064-8610 札幌市中央区南13条西11丁目2番32号
電 話 番 号	011-530-1000(代表)
代 表 者 名	代表取締役会長 三浦 紘一 代表取締役社長 横山 清
設 立	1961年10月28日
資 本 金	212億500万円
発行済株式数	57,649,868株(2019年2月末現在)
事 業 内 容	純粋持株会社
従業員数(連結)	社 員 5,085人 パートナー社員 14,491人(8時間換算した12カ月平均の人数です)
決 算 期	2月末日
証 券 コ ー ド	9948(東京証券取引所市場第一部、札幌証券取引所)
	合 計 19,576人 (※2019年2月28日現在のアークスグループの従業員数に2019年3月31日現在の株式会社伊藤チェーンの従業員数を加算した人数です。)

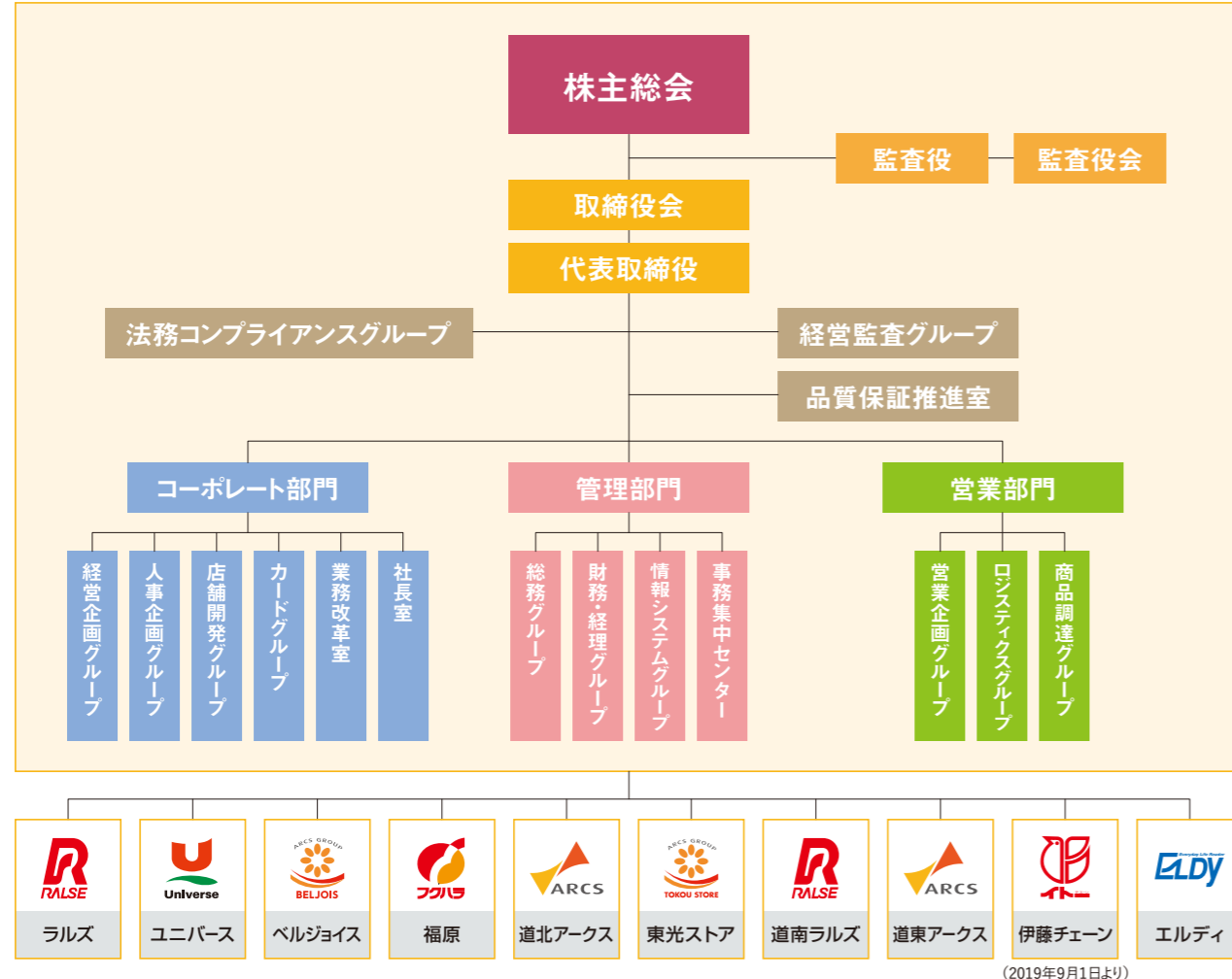
アークスグループ経営陣

(2019年9月1日現在)



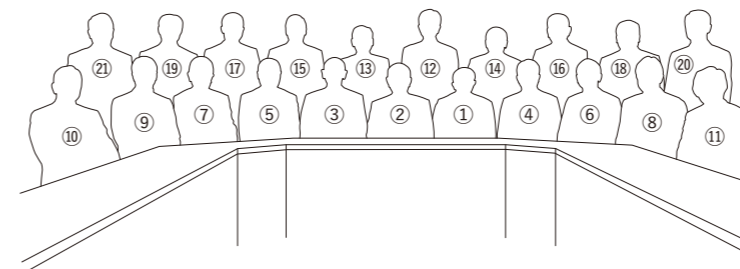
株式会社アークス 経営組織図

(2019年5月23日現在)



(2019年9月1日より)

代表取締役会長	三浦 紘一	①	常勤監査役	佐川 広幸	⑫
代表取締役社長	横山 清	②	監査役	田守 隆行	⑬
取締役専務執行役員	古川 公一	③	社外監査役	高嶋 智	⑭
取締役執行役員	六車 亮	④	社外監査役	伊東 和範	⑮
取締役執行役員	小苺米 秀樹	⑤	執行役員	増山 謙一	⑯
取締役執行役員	福原 郁治	⑥	執行役員	阿部 修	⑰
取締役執行役員	井上 浩一	⑦	株式会社東光ストア		
取締役執行役員	澤田 司	⑧	代表取締役社長	楠美 秀一	⑱
取締役執行役員	猫宮 一久	⑨	株式会社道南ラルズ		
社外取締役	佐伯 浩	⑩	代表取締役社長	土手 光三	⑲
社外取締役	佐々木 亮子	⑪	株式会社道東アークス		
			代表取締役社長	篠原 肇	⑳
			株式会社伊藤チェーン		
			代表取締役社長	伊藤 吉一	㉑



株式概要

株式の状況 (2019年2月28日現在)

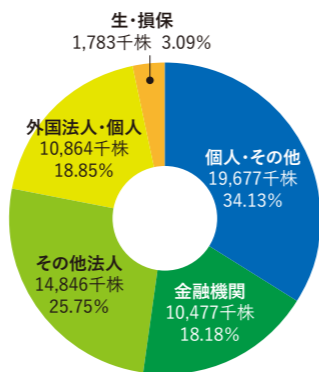
- 発行可能株式総数 200,000,000株
- 発行済株式の総数 57,649,868株
- 株主数 25,687名 (前期比1,116名増)

大株主(上位10名)

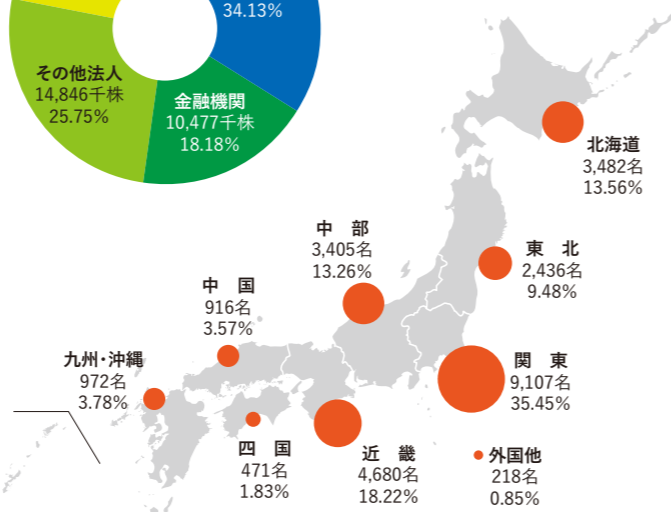
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
横山 清	3,030,454	5.25
株式会社北海道銀行	2,527,072	4.38
有限会社丸治	1,437,131	2.49
株式会社北洋銀行	1,415,844	2.45
株式会社謙徳	1,377,619	2.38
株式会社パローホールディングス	1,335,000	2.31
株式会社リテールパートナーズ	1,335,000	2.31
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,217,519	2.11
三浦 紘一	1,031,145	1.78
アークスグループ社員持株会	1,015,898	1.76

※持株比率は自己株式(475株)を控除して計算しています。

●所有者別分布状況(株式数)



●地域別分布状況(株主数)



株主優待制度の内容

日頃よりご支援いただいている株主の皆様へ、感謝の気持ちを込めて「株主優待制度」を実施しており、毎年2月末現在の株主様に対し、100株以上のご所有株式数に応じてアークスグループ商品券、全国共通ギフトカード、青森県産りんご、アップルジュースの4種類の中から一点と、1,000株以上お持ちの株主様にはカタログギフトを贈呈しています(送付時期は、りんごのみ12月上旬、その他は7月中旬の予定です)。 ※ご所有の株数により、優待商品が異なります。

株主優待発行基準

所有株式数	アークスグループ商品券	全国共通ギフトカード	青森県産りんご	アップルジュース(250g×30本)	カタログギフト(3,000円相当または3,500円相当)
100~499株	2,000円分	2,000円分	約3kg	1箱	-
500~999株	3,000円分	3,000円分	約5kg	2箱	-
1,000~4,999株	4,000円分	4,000円分	約5kg	2箱	+
5,000株以上	5,000円分	5,000円分	約10kg	2箱	+

いずれかひとつお選びいただけます。

※写真はイメージです。実際の優待品は写真と異なる場合があります。

社名・シンボルマーク

社名の由来

“ARC”とは日本語で「弧」という意味です。グループ名の“ARCS”とは、「一つひとつの企業が強い“弧”となり、大きな円=ARCSを創りあげ、地域社会に貢献していく」ことを意味しています。またARCSは、Always, Rising, Community, Serviceの頭文字から構成されており、それぞれの文字には次の意味が込められています。

A

Always (常に)

お客様が必要とされるものをいつもお手元へ。
アークスグループは常にお客様にとって身近な存在でありたいと願っています。

R

Rising (上昇する)

お客様のより豊かな暮らしに貢献するため、様々な工夫を重ねています。
お客様の笑顔は、私たちの働く喜びにつながります。

C

Community (地域社会に)

私たちは常に、安全・安心な商品・サービスの提供を通じて、地域社会に貢献します。

S

Service (奉仕する)

私たちは、お客様の視点に立って損得より善悪で判断することを心がけ、社員研修で徹底した接客教育を続けています。

シンボルマーク

太陽と輝く星を抽象的にイメージしたアークスのグループシンボルは、グループとお客様との結びつきを表現し、未来に向かって挑戦しつづける姿勢をシンボライズしています。

シンボルカラーは、●RED=太陽=生活 ●YELLOW=星=幸福をイメージしています。

